C25JP1121

J 日本語

SIGMA

SD1

THE SIGMA SD1
DIGITAL SINGLE LENS
REFLEX CAMERA
WITH FULL COLOR
IMAGE SENSOR

使用説明書

本書は **SIGMA SD1** カメラ本体の使用説明書です。
付属の現像ソフト“**SIGMA Photo Pro**”のコンピューターへのインストール方法は、**SIGMA Photo Pro Disc** 内の PDF ファイル“Install Guide_JP.pdf”をご覧ください。
SIGMA Photo Pro の使用方法、およびカメラとコンピューターとの接続方法は、**SIGMA Photo Pro** のヘルプをご覧ください。

このたびはシグマ製品をお買い上げ頂き ありがとうございます

SD1 は RGB 全色を 1 つのピクセルで取り込むことができる画期的な撮像素子、**FOVEON® X3™** イメージセンサーを搭載した、高画質デジタル一眼レフカメラです。高性能なイメージセンサーの性能を十分に引き出す、シグマの豊富な交換レンズ群との組合せによって、SD1 は様々なシーンを高品位なデジタル画像として定着することができます。

カメラの機能を十分に理解していただき、正しくより良い撮影ができますように、ご使用の前にこの説明書をよくお読みになり、いつまでもご愛用頂きたくお願い申し上げます。

- 使用説明書は、必要なときにいつでも御覧いただける場所に保管して、使用の際に不明な点が生じた場合にご活用ください。
- この製品はご購入より 1 年間の品質保証がなされています。保証の内容、およびアフターサービスについては、別紙の“保証規定”を御覧ください。

著作権について

あなたが本カメラで記録した画像は、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。尚、実演や興行、展示会などのなかには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporation の商標です。
- IBM PC / AT シリーズは、米国 International Business Machines 社の商標、または登録商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、および Mac OS は、米国およびその他の国で登録された、米国 Apple Inc の商標です。
- Adobe、Photoshop は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- その他、本冊子中の社名や商品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。
- 本製品は、メニュー表示等に株式会社リコーがデザイン制作したリコー True Type フォントを使用しています。

妨害電波自主規制について

本カメラは、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラス B 情報技術装置です。本カメラは、家庭環境で使用することを目的としていますが、本カメラをラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

標準付属品の確認

このカメラには、標準付属品として以下のものが入っています。ご使用になる前にすべて揃っているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

①SD1 カメラ本体
②ボディキャップ（カメラ本体に付属）
③アイピースカップ（カメラ本体に付属）
④ストラップ
⑤ファインダーキャップ
⑥リチウムイオン充電池 BP-21（接点カバー付）
⑦リチウムイオン充電器 BC-21
⑧充電器用 AC ケーブル
⑨USB ケーブル
⑩AV ケーブル
⑪SIGMA Photo Pro Disc
⑫使用説明書（本書）
⑬保証書
⑭保証規定書

- 画像を記録するメモリーカードは付属していません。別途お買い求めください。

目　次

安全上のご注意

人的損害や物的損害を未然に防止するため、ご使用の前にこの項目の内容を十分ご理解いただくようお願いします。

⚠**警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠**注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

各文章の ⚠ 記号は注意、もしくは警告を促す内容を告げています。

各文章の ⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げています。

⚠ 警告（電池、充電器、電源について）

⚠ 電池はお子様の手の届かない場所に保管してください。万一飲み込んだ場合、液漏れにより健康を害するおそれがあります。ただちに医師にご相談ください。

⃠ 使用説明書に指定されていない電池は使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

⃠ 電池は指定された機器以外には使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

⃠ 強い衝撃や振動を与えたり、投げつけないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

⃠ 電池の分解、火中、水中への投下、加熱、ショートは絶対しないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

⃠ 指定されていない電池を充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

⚠ 万一、カメラや電池から煙が出る、異常に熱くなる、焦げ臭いなどの現象が起きた場合、ヤケドに注意し速やかに電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。

⚠ 電池を処分される場合は、テープなどで接点部を絶縁してください。また、お住まいの自治体の規則に従ってください。

⚠ 長期間使用しない場合、電池室から電池を取り出してください。長期間放置しますと液漏れによるカメラの破損の原因となります。

⚠ AC 電源を使用する際は、必ず専用の AC アダプターを使用してください。感電、発火の原因となります。

⚠ 専用の AC アダプターは、他の機器に使用しないでください。発熱、発火、感電、けがの原因となります。

⚠ AC アダプターを使用中に煙や異臭、異音が発生した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります。

⚠ 水や異物が AC アダプター内に侵入した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります

⊘ 改造や分解はしないでください。火災や感電の原因になります。

⊘ コードの上に重たい物をのせたり、コードを引いたり曲げたり、また熱したりしないでください。コードの損傷、火災や感電の原因になります。

⊘ 指定(AC100V-240V)された以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になります。

⚠ 電源コードは、指定されているものを使用してください。

⚠ 警告 （カメラについて）

⊘ プロパンガス、ガソリンなどの引火性のガスが発生する場所では、火災、爆発のおそれがありますので、絶対に使用しないでください。

⚠ カメラはお子様の手の届かない場所に保管してください。誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

⊘ カメラは自分で分解、改造しないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。

⊘ 落下等で破損した場合、内部に手を触れないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。

⊘ レンズを着けたカメラで、太陽や強い光源を見ないでください。視力障害の原因となります。

⊘ レンズ単体で太陽を見ないでください。失明の原因となります。

⚠ 水中に落としたり内部に水が入った場合、電池を抜いてご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。そのまま放置しますと火災や感電の原因となります。

⊘ カメラ本体のコネクター部に、金属片等を差し込まないでください。感電、発熱、発火の原因となります。

フラッシュを人の目に近づけて発光しないでください。視力障害の原因となります。特に乳幼児を撮影する場合は、1m 以上離れてください。

フラッシュの発光部を手で覆ったまま発光しないでください。ヤケドの原因となります。

⚠ 注意 （充電器、電源について）

充電器や AC アダプターをコンセントから抜く場合、コードを引っ張らないでください。コードを痛め、火災や感電の原因となります。常にプラグを持ってコンセントから引き抜いてください。

充電器やACアダプターを布やクッションなどで覆い被さないでください。発熱し、本体を変形させたりし、火災の原因となります。

使用しない場合は、安全の為コンセントを抜いてください。

充電器やＡＣアダプターを掃除する場合は､安全の為コンセントから抜いて行ってください。

⚠ 注意（カメラについて）

レンズ、またはレンズを着けたカメラをレンズキャップをはずしたまま放置しないでください。日光があたった場合、集光現象を起こし、火災の原因となることがあります。

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないでください。転倒したりぶつけたりして、けがの原因となることがあります。

カメラをぬれた手でさわらないでください。感電することがあります。

カメラを熱いものの近くや、日中の車内に放置しないでください。カメラ自体が高温になり、ヤケドの原因となることがあります。

液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片にご注意ください。ケガの原因となります。また、破損により液晶モニタ内部の液体が流出し、以下のような状況になった場合、それぞれの対処を行ってください。

- 液体が衣服や皮膚に付着したときは、ただちに石鹸で洗い流してください。
- 液体が目に入ったときは、ただちにきれいな水で 15 分以上洗浄し、医師の診療を受けてください。
- 液体を飲み込んだときは、大量の水を飲んで吐き出し、医師の診療を受けてください。

取り扱い上のご注意

ご使用の前に

結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には、事前のチェックや試し撮りをして、カメラが正常に作動するか必ず確認してください。撮影に要した諸経費、および撮影により得べかりし利益の損失等については保証致しかねます。

長期間の旅行、野外撮影、寒冷地での撮影、またはたくさんの写真を撮られるようなときなどには、予備の新しい電池を多めに用意することをおすすめします。地域によっては電池の入手が困難な場合があります。

このカメラのホットシューには、専用の外部フラッシュとカメラの連動用信号ピンが設置されています。他メーカーのフラッシュ、およびシグマ製の他メーカー用フラッシュを装着すると、連動用信号ピンがショートしたり他の信号電流が流れたりして、カメラの電子回路に悪影響を及ぼす可能性がありますので、専用のフラッシュ以外の装着はしないでください。

ご使用の環境や注意点について

- カメラは精密機械です。ぶつけたり、落としたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので水中では使用できません。水滴がついた場合は速やかに乾いたきれいな布で拭きとってください。万一、水がかかったり、水中に落とした場合には早めに弊社営業所にご連絡ください。
- ほこりの多い場所や高温多湿の場所（特に日中の車内等）へ長時間放置しないでください。
- 寒い場所から温かい室内に持ち込む場合、カメラに水滴が生じます。カメラをバックやビニール袋に入れて周囲の温度になじませてからご使用ください。
- このカメラの使用可能温度は約 0℃～＋40℃、使用可能湿度は約 80%以下（結露しないこと）です。0℃以下になると電池の性能低下が影響します。寒い場所では予備の電池を用意し、ポケットに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。
- 静電気や磁気の影響により、まれにカメラが作動しなくなることがあります。このようなときは、一旦電池を取り出して再度装填し直してください。また、強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しない場合があります。

保管について

- 長期間ご使用にならないときは、液漏れによるカメラの破損を防ぐため、電池を取り出して保管してください。
- カビや錆の発生を防ぐため、風通しのよい乾燥した場所に保管してください。カメラを乾燥剤といっしょにビニール袋にいれて保管するのも有効な手段です。ただし乾燥剤は有効期限がありますので、ときどき交換してください。ナフタリン等の防虫剤はカメラに悪影響を与えますのでいっしょに保管しないでください。

液晶モニタについて

- 液晶モニタはその特性上、一部の画素に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また、記録されるデータには影響ありません。予めご了承ください。
- 液晶の特性により、低温下で表示の反応が遅くなることがあります。また、高温下で表示が黒くなることがありますが、常温になれば正常に戻ります。

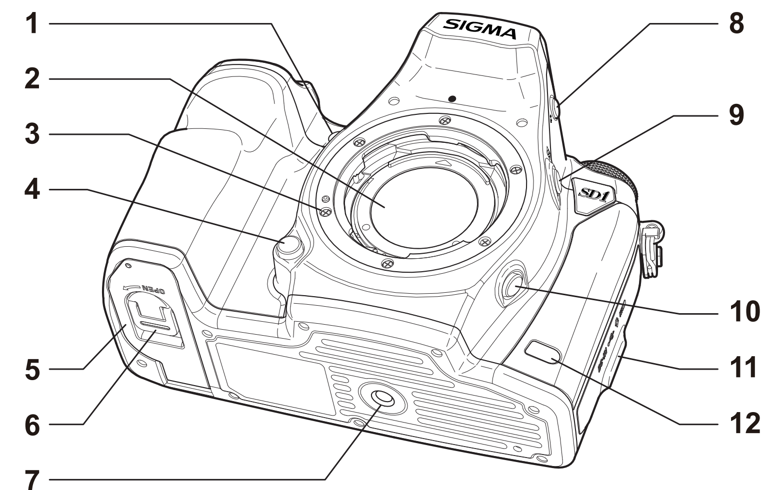
カードについて（別売）

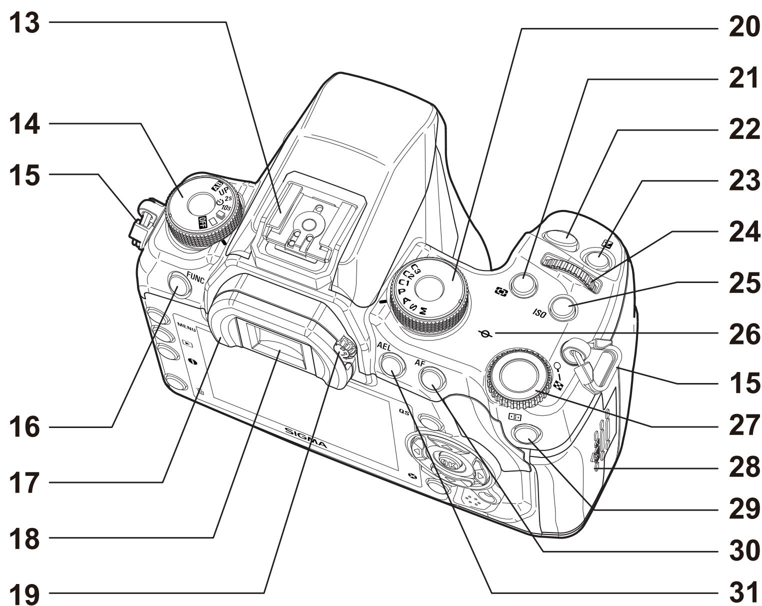
SD1 は、データの記録にコンパクトフラッシュ™（CF）カード（Type I）を使用します。

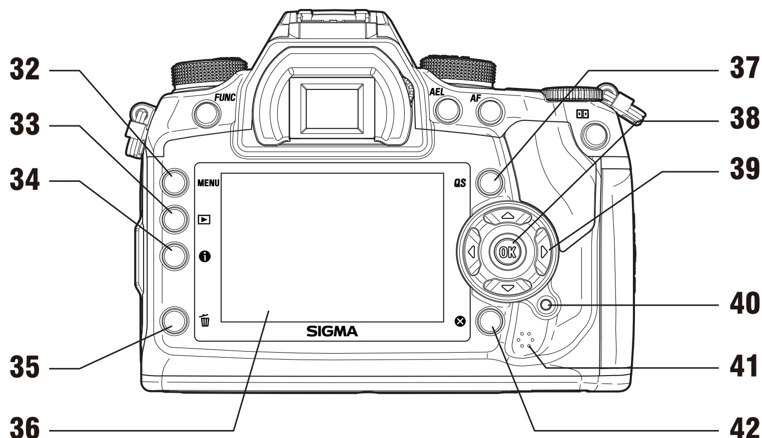
※ 本書ではコンパクトフラッシュ™（CF）カードを「カード」と記載しています。

- カードを曲げたり、落としたり、強い衝撃や振動を与えないでください。
- カードは絶対に濡らさないでください。
- カードを直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばに放置しないでください。
- カードを温度の高い場所、湿度の高い場所、静電気の起こりやすい場所や電磁波が発生している場所に保管しないでください。
- カードの詳細な取扱い方法は、それぞれの使用説明書の内容に従ってください。
- カメラの「カードの初期化」やパソコンの「削除」の機能では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。廃棄／譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

各部の名称


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
SIGMA
OPEN


13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
15
27
28
29
30
31
FUNC
MENU
AEL
AF
ISO
QS
SIGMA
OFF
UP
2s
10s
C3
C2
C1
P
A
S
M

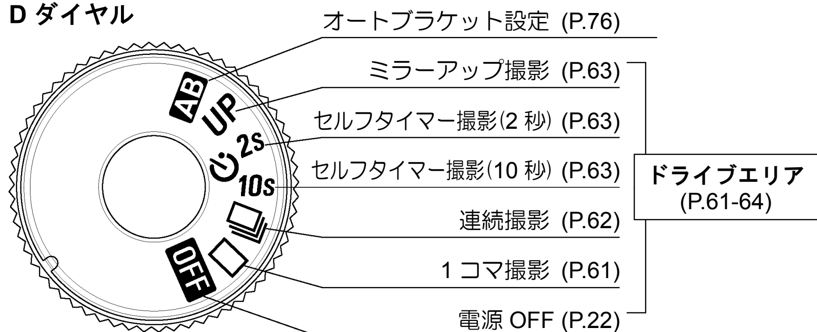


1. AF 補助光（P.58）
(赤目緩和ランプ（P.53））
2. ダストプロテクター（P.116）
3. マウント（P.24）
4. レンズ着脱ボタン（P.25）
5. 電池蓋（P.20）
6. 電池蓋開閉つまみ（P.20）
7. 三脚ネジ穴
8. (フラッシュポップアップ)ボタン(P.51)
9. （調光補正）ボタン（P.75）
10. プレビューボタン（P.81）
11. コネクターカバー（P.13）
12. リモコン受光部（P.78）
13. ホットシュー（P.81）
14. D (ドライブ) ダイヤル（P.13, 61）
15. ストラップ取付け金具（P.18）
16. *FUNC* (ファンクション) ボタン (P.35)
17. アイピースカップ（P.18）
18. ファインダー接眼部（P.43）
19. 視度補正ダイヤル（P.43）
20. モードダイヤル（P.13, 45）
21. （測光モード）ボタン（P.71）
22. シャッターボタン（P.44）
23. (露出補正) ボタン（P.74）
24. A ダイヤル（ ）
25. *ISO*（ISO 感度設定）ボタン（P.67）
26. 撮像素子位置マーク
27. S ダイヤル（ ）
28. CF カードドア（P.39）
29. （AF ポイント選択）ボタン（P.57）
30. *AF*（AF）ボタン（P.60）
31. *AEL*（AE ロック）ボタン（P.72）

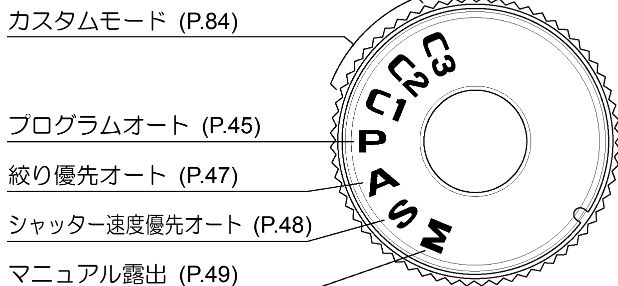
32. MENU（メニュー）ボタン（P.28）
33. （ビュー）ボタン（P.87）
34. (インフォメーション)ボタン(P.38, 91)
35. （消去）ボタン（P.96）
36. 液晶モニタ
37. *QS*（クイックセット）ボタン（P.37）
38. （OK）ボタン（P.28, 104）
39. 十字コントローラー
40. アクセスランプ（P.40）
41. スピーカー
42. （キャンセル）ボタン（P.28）

ダイヤル

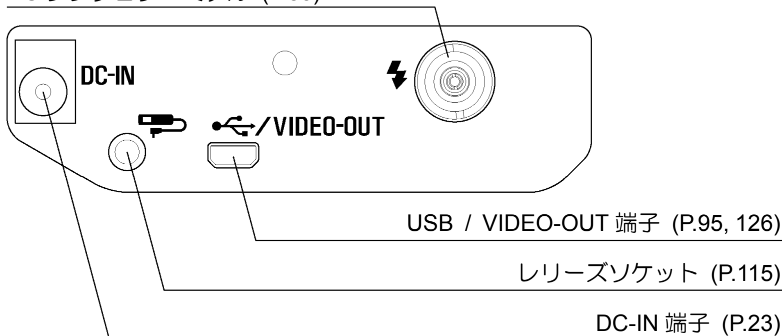
D ダイヤル



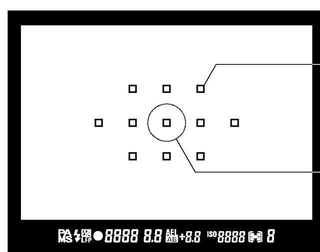
モードダイヤル



コネクターパネル（コネクターカバー内）



ファインダー



AF ポイント (P.55-59)

スポット測光範囲枠 (P.72)

露出モード表示 (P.45-50)

フラッシュ表示 (P.46, 51)

調光補正表示 (P.75)

FP 発光表示 (外部フラッシュ使用時)

合焦表示 (P.55-60)

シャッター速度表示 (P.45-50)

絞り値表示 (P.45-50)

AE ロック表示 (P.72)

PA MS ⚡ FP ● 8888 8.8 AEL AB +8.8 ISO 8888 8

オートブラケット表示 (P.76)

露出メーター表示 (P.49)

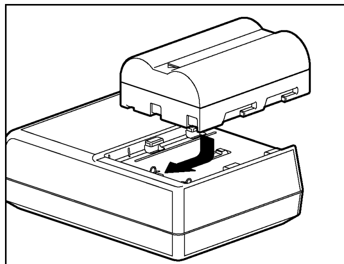
カウンター表示 (P.42)／ISO 設定表示 (P.67)

測光モード表示 (P.71-72)

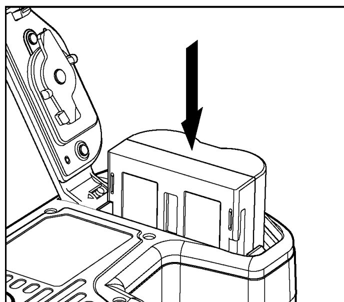
バッファー残量表示 (P.42)

操作の流れと参照項目

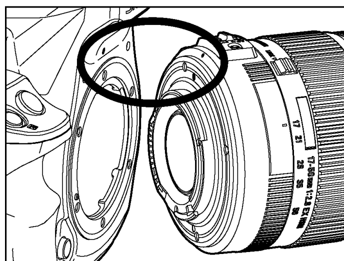
SD1 にはたくさんの機能がありますが、このページでおおよその流れをつかんで、各項目で操作の詳細をマスターしてください。

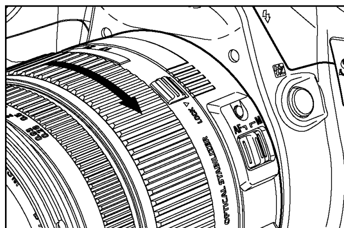


電池を充電します（P.19）
付属の専用リチウムイオン充電池を専用充電器で充電します。



電池を入れます（P.20）
ふたの内側の表示に従って電池を入れます。





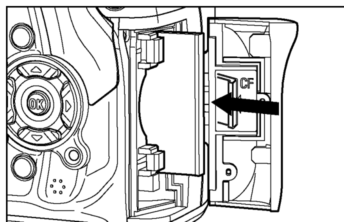
レンズを取り付けます（P.24）
カメラのマウントにある赤い丸とレンズ側の指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを右回りにカチッと音がしてロックされるまで回します。



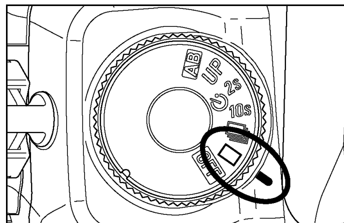
言語を設定します（P.26）
メニュー画面の文字が、ご使用になりたい言語と異なる場合は、言語を変更します。



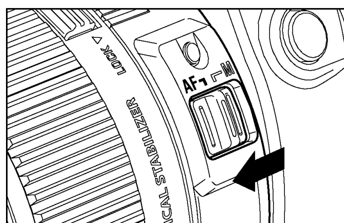
日付と時間を設定します（P.27）
画像データのファイルに撮影日時が正しく記録されるように日付と時間の設定をします。



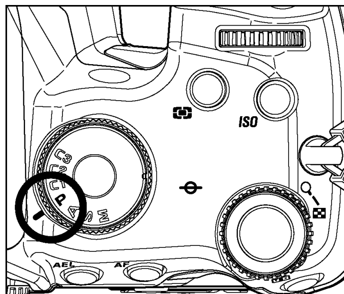
カードを入れます（P.39）



D ダイヤルを □（1 コマ撮影）に合わせて電源を入れます。**（P.61）**



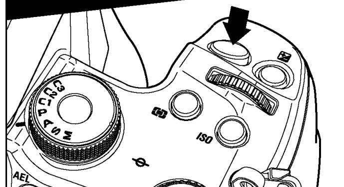
レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にします。**（P.55）**



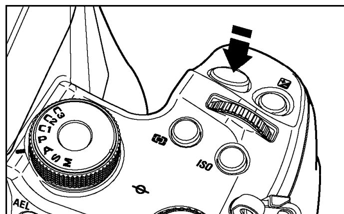
露出のモードを選びます（P.45）
まずは **P**（プログラムオート）にセットしましょう。



ピントを合わせます（P.55）
ファインダーで構図を決めてシャッターボタンを半押しします。



撮影します
さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。



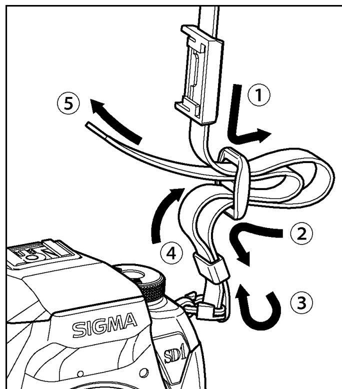
撮影した画像を確認します。（P.86）
画像が 2 秒間表示されます。



カメラを使う準備をする

撮影をはじめる前に必要な準備やチェックする項目について説明します。

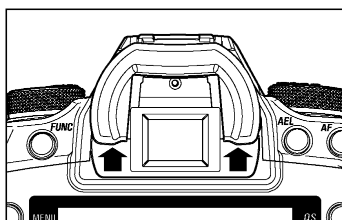
ストラップの取り付け方



付属のストラップの両端を一旦ほどいて、ファインダーキャップを通してから、図のように左右のストラップ取付け金具に通して取り付けます。

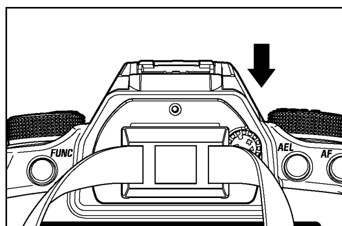
ファインダーキャップの使い方

セルフタイマーやリモコン撮影など、ファインダーから目を離して操作をする時に使用します。



1

アイピースカップを図のように外します。

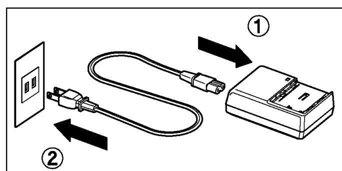


2

外したアイピースカップの代わりにファインダーキャップを差し込みます。

電池を入れる

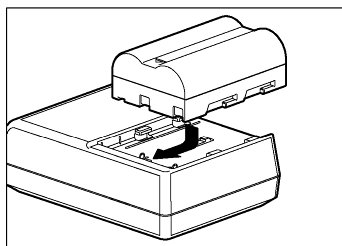
SD1 は、付属の専用リチウムイオン充電池 BP-21 を使用します。お買い上げの際には、電池は充電されていません。付属の専用充電器 BC-21 で充電を行ってからお使いください。



電池を充電する

1

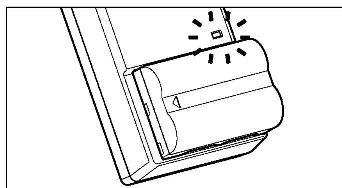
電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントに差し込みます。



2

図のように、電池をスライドさせて充電器に取り付けます。

- 充電中は充電ランプが点灯します。
- 充電時間は約 150 分です。
- 充電時間は周囲の温度や、充電状態によって異なります。



3

充電ランプが消えたら充電完了です。
電池を外して、電源コードをコンセントから抜いてください。

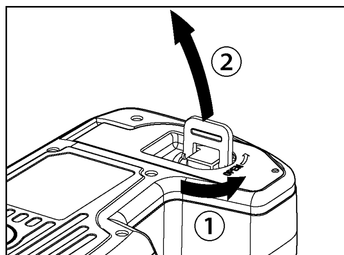
- 電池の充電は、なるべくご使用の直前にされることをおすすめします。日数がたちますと、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 充電しても、撮影可能枚数が極端に少なくなった場合は、電池の寿命が考えられます。新しい充電地をお買い求めください。

- この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。ご使用済の電池は貴重な資源となります。端子にテープを貼りつけて絶縁してからリサイクル協力店にお持ちください。

リサイクル協力店のお問い合わせ先は、
有限責任中間法人 JBRC
ホームページアドレス：http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html

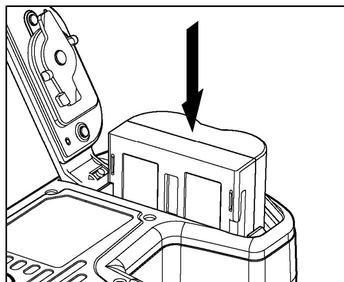


電池の入れ方



1

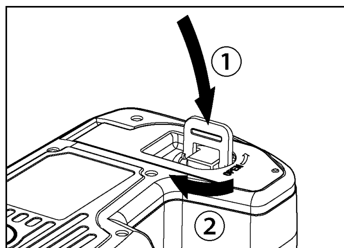
D ダイヤルが OFF の位置になっているのを確認し、図のように電池蓋開閉つまみを回して、ふたを開けます。



2

電池室内の表示に従って電池を入れます。

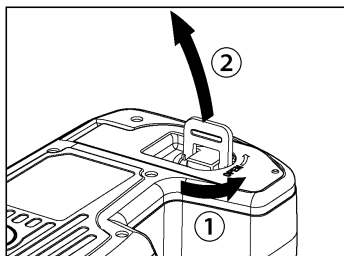
- 電池がロックされるまで押し込んでください。



3

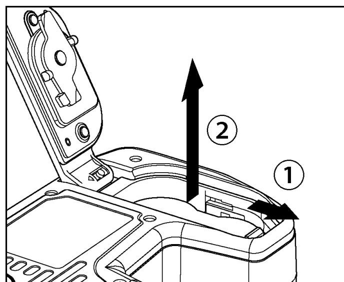
ふたを閉じ、図のように電池蓋開閉つまみを回してロックします。

電池の取り外し方



1

D ダイヤルが OFF の位置になっているのを確認し、図のように電池蓋開閉つまみを回して、ふたを開けます。



2

電池ロックレバーを図のようにスライドさせて、電池を取り出します。

警　告 !!

- アクセスランプが点灯中は、絶対に電池を取り出さないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

電池のチェック

液晶モニタの左上に電池の残量を示すアイコンが表示されます。表示の意味と対応は下図の通りです。カメラの使用前及び使用中は、常に電池アイコンをチェックするよう心がけてください。

	表示の意味と対応
白	電池の残量が十分にあります。
白	電池の残量が少なくなっています。新しい電池をご用意ください。
白	電池の残量が殆どなく、まもなくカメラが作動しなくなります。電池を交換してください。
赤 点滅	電池の残量がなく、カメラが作動しません。電池を交換してください。
白	AC アダプターを接続して、家庭用電源で作動しています。

省電力機能について

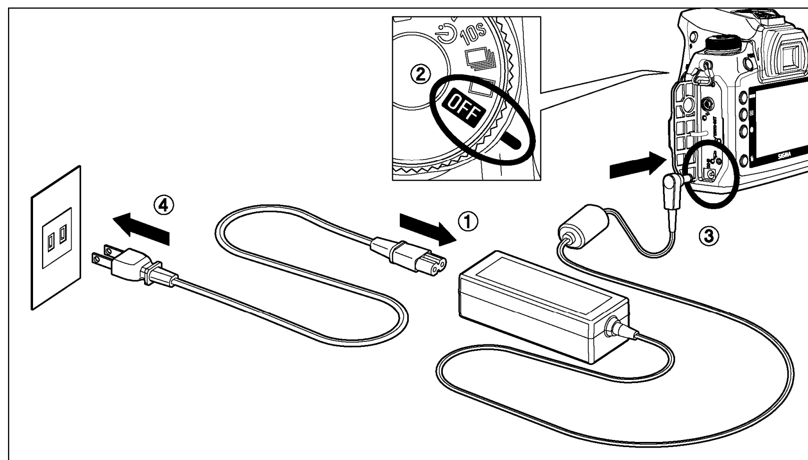
カメラを操作せずに約 6 秒間過ぎると、ファインダー内の表示が消灯し、電池の消耗が抑えられます（液晶パネルにファンクション画面（**P.35**）が表示されているときは消灯しません）。各ボタン（プレビューボタンを除く）は通常通り操作可能です。

その他の省電力機能として、ある一定時間操作しない状態が続くと、自動的に液晶モニタを消灯させる「**LCD オフ**」と、カメラの電源を OFF にする「**オートパワーオフ**」の機能を備えています。詳しくは **111** ページ「**LCD オフとオートパワーオフ**」の項目をご覧ください。

いずれの場合も、D ダイヤルを OFF にしたときと異なり、微小な電気が流れており、不用意に電源が入ったり、シャッターが切れる場合がありますので、使用時以外は D ダイヤルを OFF にしてください。

家庭用電源の使い方（別売）

別売りのＡＣアダプター（SAC-4）を使用して、家庭用電源でカメラを作動させることができます。長時間の撮影、画像の再生、コンピューターとの接続時等におすすめします。



1

AC ケーブルを AC アダプターに接続します。①

2

D ダイヤルが OFF の位置にあるのを確認し、カメラのコネクターカバーを開け、AC アダプターのプラグを DC-IN 端子に接続します。② ③

3

AC ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。④

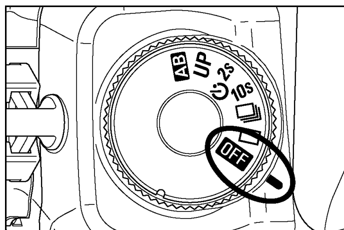
使い終わったら、**D** ダイヤルを OFF にし、プラグをコンセントから抜いてください。

家庭用電源での作動中は、電池の有無、もしくは電池容量にかかわらず、表示パネルの電池マークはフルの表示になります。電池による作動に切り替えると、本来の残量表示に切り替わります。

警　告 !!

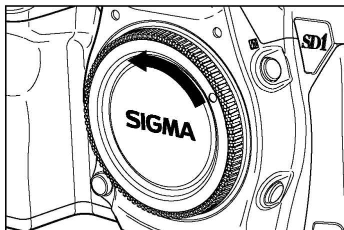
- アクセスランプが点灯している時には、絶対に電源の切り替えを行わないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

レンズを取り付ける



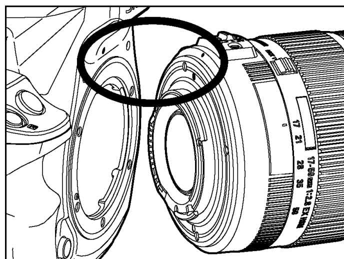
1

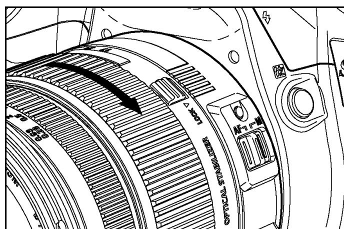
D ダイヤルを OFF にします。



2

レンズのリヤキャップと、ボディのマウントキャップを外します。



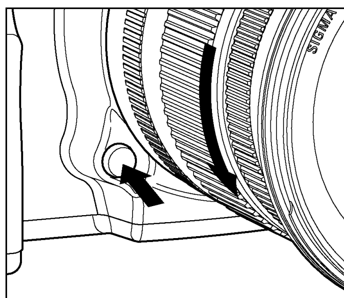


3

カメラのマウントにある赤い丸とレンズ側の指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを右回りにカチッと音がしてロックされるまで回します。

ご注意 !!

- 取り付けの際にレンズ着脱ボタンを押していると、ロックが不完全になる場合があります。この状態ではレンズが連動しないばかりか、レンズがボディから脱落する恐れがあります。必ずロックがされていることを確認してください。
- マウント部にセットされているガラス（ダストプロテクター）は、特にキズが付きやすくなっています。指などで直接触れないようにご注意ください。ゴミやほこりなどがある場合は、「**お手入れについて**」（**P.116**）の項目をご覧ください。



4

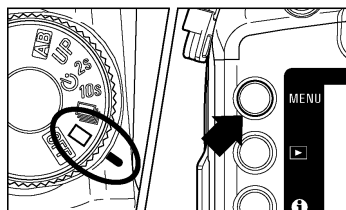
レンズを取り外す時は、レンズ着脱ボタンを押しながら、左回りに止まるまで回し、静かに引き抜いてください。

ご注意 !!

- レンズのマウント面には、電気情報接点等、レンズとカメラの連動装置があります。キズや汚れが付くと誤動作や故障の原因となります。リヤキャップを外したまま、レンズのマウント面を下に置かないでください。

言語の設定

液晶モニタに表示されるメニューやメッセージの言語は、英語が初期設定となっています。セットアップメニューの「**Language / 言語**」で日本語に設定を変更してください。

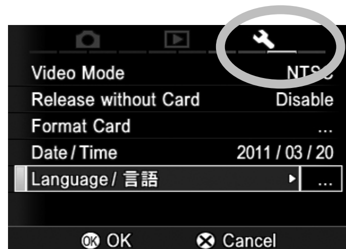


1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の **MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.28** 参照）



3

S ダイヤル（ ）を回して「**カメラ設定(3)**」を選択します。

4

ボタンを押す、もしくは **A** ダイヤル（ ）を回して「**Language/ 言語**」を選択します。

5

ボタンか OK ボタンを押して、言語設定画面を開きます。



6

ボタンで「**日本語**」を選択します。言語は下記の 9 種から選択できます。

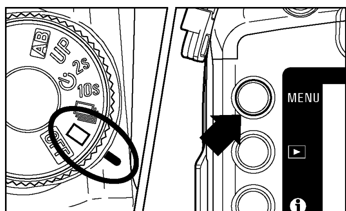
English	英語
日本語	日本語
Deutsch	ドイツ語
Français	フランス語
Español	スペイン語
Italiano	イタリア語
中文(简体字)	中国語
한국어	韓国語
Русский	ロシア語

7

OK ボタンを押して確定します。（確定しない場合は ボタンを押します。）

日付と時間の設定

SD1 は、撮影した日付と時間を画像と共に記録します。正確な日付と時間が確実に記録されるために、初めて使用する、あるいは長期間使用していなかった場合は、日付と時間を正しく設定してください。







1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源を入れます。

2

本体背面の **MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（**P.28** 参照）

3

S ダイヤル（◉）を回して「**カメラ設定(3)**」を選択します。

4

⬍ ボタンを押す、もしくは A ダイヤル（ ）を回して「**日付** / **時刻**」を選択します。

5

▶ボタンか OKボタンを押して、日付 / 時刻の設定ページを開きます。

6

◀▶ ボタンで各項目を選択し、⬍ ボタンで修正します。

7

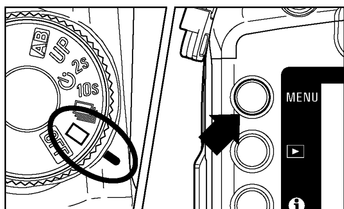
すべて設定し、OKボタンを押すとメインメニューに戻ります。設定を途中で止めたい場合は、⊗ ボタンを押してください。

メ　モ

- 日付表示は、①年月日、②月日年、③日月年の 3 種類から選べます。「**日付設定**」の項目で希望する状態にセットしてください。
- カメラの内蔵時計は、カメラ動作用電池から内蔵の充電池に充電された電気で動いています。長期間カメラに電池が入っていない状態で、充電がされていない場合は、内蔵時計を再設定する必要があります。

セットアップメニュー

カメラ操作の基本となるセットアップメニューについて説明します。
セットアップメニュー画面から、カメラのこまかい機能や、カメラの基本状態を設定することができます。



セットアップメニューを開く

● 本体背面の **MENU** ボタンを押します。

再度 **MENU** ボタンを押すと、セットアップメニューが閉じ液晶モニタが消灯します。（画像の再生中（**P.87**）では、元の表示画像に戻ります）

タブエリア



他のページに移動する

S ダイヤル（ ）を回すごとに、となりのページに移動できます。（タブエリアが選択されている時は、◀▶ボタンを押してもとなりのページに移動できます。）



セットアップメニューでは：

● ▲▼ボタンを押す、もしくは **A** ダイヤル（ ）を回して、希望の項目を選択します。

● ▶ボタンか OKボタンを押すとサブメニューが開きます。（項目によっては、専用画面が開いたり、確認メッセージが表示されるものがあります。）



サブメニューでは：

● ▲▼ボタンを押す、もしくは **A** ダイヤル（ ）を回して、希望のオプションを選択します。

● ▶ボタンか OKボタンで確定します。

（◀ボタンか ✕ボタンを押すと、オプションが変更されずにサブメニューが閉じます。）

● セットアップメニューは以下の 3 つのグループに分類されています。



撮影設定

撮影に関する機能を設定するメニューです。撮影モード時に **MENU** ボタンを押すと、「**撮影設定**」メニューが開きます。



再生設定

画像の再生に関する機能を設定するメニューです。DPOF 設定などプリントに関する設定も再生設定メニューに含まれます。画像の再生中に **MENU** ボタンを押すと、「 **再生設定**」メニューが開きます。



カメラ設定

日付の設定や言語の選択など、カメラの基本状態を設定するメニューです。**MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開き、**S** ダイヤル（）を回して「**カメラ設定**」メニューに移動します。

メ モ

● カメラの状態によって、設定することができない項目やオプションは、グレーで表示されます。

セットアップメニューリスト

設定項目の詳細は、各該当ページをご覧ください。

撮影設定

	項目	設定内容	ページ
(1)	**カスタム WB**	カスタムホワイトバランス設定に使用する、基準画像の取り込みを行います。	**66**
	ピクチャーセッティング	記録する画像のパラメーターの調整と、色空間（カラースペース）の設定をします。	**70**
	縦位置情報記録	撮影時に、縦位置撮影情報を画像データに記録をするか、しないを設定します。	**84**

	項目	設定内容	ページ
(2)	**AEL ボタンの設定**	***AEL*** ボタンから指を離した際に、AE ロックを継続するか、しないかを設定します。	**73**
	半押し AEL	シャッターボタンを半押しした際に、露出を固定するか、しないを設定します。	**73**
	スローシンクロ	フラッシュ撮影時に、スローシンクロをするか、しないかを設定します。	**54**
	シンクロモード	フラッシュ撮影時に、先幕シンクロにするか、後幕シンクロにするかを設定します。	**54**
	オートブラケット設定	オートブラケット撮影時における、露出の順序と撮影コマ数を設定します。	**76**

撮影設定（つづき）

	項目	設定内容	ページ
(3)	**AF 補助光**	暗い場所での AF 補助光の照射をするか、しないかを設定します。	**58**
	AF 駆動設定	オートフォーカスを駆動させるボタンの割り当て等を設定します。	**60**
	A / S ダイヤルの入れ換え	マニュアル露出モード時の **A** ダイヤル（ ）と **S** ダイヤル（ ）の動作の割り当てを変更するか、しないかを設定します。	**110**
	ダイヤル回転方向の反転	**A** ダイヤル（ ）と **S** ダイヤル（ ）の回転方向に対する増減を逆にするか、しないかを設定します。	**110**

	項目	設定内容	ページ
(4)	***UP* モードの動作**	ミラーアップ撮影時における、露光のタイミングを設定します。	**64**
	リモコンモード	リモートコントローラー（別売）を使用するか、しないかの設定と、リモコンモードのチャンネルを設定します	**78**
	撮影画像確認	撮影後、液晶モニタに自動的に表示される確認画像の表示時間を設定します。	**86**

▶ 再生設定

	項目	設定内容	ページ
▶ (1)	ロック	画像データのロック、もしくはロック解除を行います。	98
	マーク	画像データのマーク、もしくはマーク解除を行います。	100
	回転	画像データの表示方向の変更を行います。	102
	消去	画像データの消去を行います。	96
	スライドショー	画像データのスライドショー（連続自動再生）、およびスライドショーの詳細を設定します。	105
	DPOF 設定	カード内のプリントしたい画像の指定や枚数を設定します。	107

	項目	設定内容	ページ
▶ (2)	露出警告	再生画像に露出オーバーの警告を表示するか、しないかを設定します。	94
	OK ボタンの設定	OK ボタンに割り当てる機能の設定をします。	104
	回転表示	縦位置情報が記録された画像を回転して表示するか、しないかを設定します。	—

🔧 カメラ設定

	項目	設定内容	ページ
🔧 (1)	**AF 微調整**	オートフォーカスの合焦位置の微調整を行います。	**112**
	カスタムモード設定	カスタムモード（**C1**・**C2**・**C3**）の登録を行います。	**85**
	拡張モード	バルブ撮影の露光可能時間を拡張するか、しないかの設定をします。	**50**
	AF ビープ音	AF 合焦ビープ音の有無を設定します。	**56**
	タイマー音	セルフタイマー、ミラーアップ撮影における、タイマー作動中の電子音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	**63,64**

	項目	設定内容	ページ
🔧 (2)	**撮影設定画面表示**	ISOボタンや[■]ボタン等の撮影設定ボタンを押した時の、情報の表示方法を設定します。	**109**
	ファイル番号	新しいカードをカメラに入れたとき、もしくはカードを初期化した後などの、ファイル番号の付き方を設定します。	**108**
	LCD の明るさ	液晶モニタのバックライトの明るさを設定します。（画像データには影響しません。）	**—**
	LCD オフ	操作をしない時に、自動的に液晶のバックライトが消灯するまでの時間を設定します。（切）は自動的に消灯しなくなる設定です。	**111**
	オートパワーオフ	操作をしない時に、自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。（切）は自動的に電源が切れなくなる設定です。	**111**

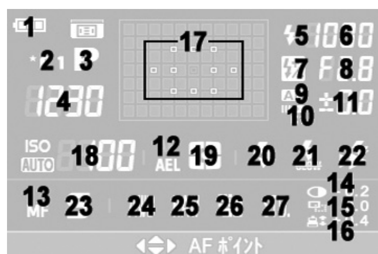
	項目	設定内容	ページ
(3)	ビデオ出力	カメラを TV やビデオにつないだときのビデオ出力方式を設定します。ご使用の地域に合った方式に切換えます。	95
	カードなしレリーズ	カメラにカードが入っていない状態でシャッターボタンを押した時に、シャッターが切れるか、切れないかの設定をします。	44
	カードの初期化	カードを初期化します。（カード内のすべてのファイルが消去されます。）	41
	日付/時刻	画像データに記録される日付と時間を設定します。	27
	言語/Language	メニューやメッセージで表示される言語を選択します。	26

	項目	設定内容	ページ
(4)	ファームウェアの更新	現在のファームウェアバージョンの確認と、カードから最新ファームウェアのアップデートを行います。	—
	レンズ情報の更新	カードから各種処理に必要なレンズの最新情報のアップデートを行います。	112
	設定のリセット	各設定を初期設定に戻します。	114
	クリーニングモード	撮像素子を清掃できるように、ミラーを上げ、シャッターを開いた状態で固定します。	116

ファンクション画面

ファンクション画面では、撮影に関する情報(絞り値、シャッタースピード、露出モード、撮影可能枚数など)を確認することができます。また、各種撮影設定をこの画面で直接変更することができます。



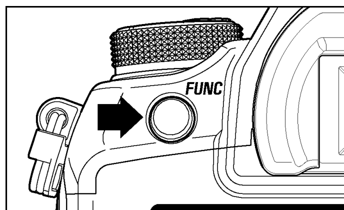


FUNC 情報			
1	電池残量表示	**9**	オートブラケット表示
2	カスタムモード表示	**10**	リモコンモード表示
3	露出モード表示	**11**	露出メーター表示
4	カウンター表示	**12**	AE ロック表示
5	発光マーク	**13**	マニュアルフォーカス表示
6	シャッター速度表示	**14**	コントラスト表示
7	調光補正表示	**15**	シャープネス表示
8	絞り値表示	**16**	彩度表示

FUNC 設定 1	
17	AF ポイント(**P.57**)

FUNC 設定 2			
18	ISO 感度(**P.67**)	**23**	AF モード(**P.56**)
19	測光モード(**P.71**)	**24**	ホワイトバランス(**P.65**)
20	発光モード(**P.53**)	**25**	画質(**P.68**)
21	スローシンクロ(**P.54**)	**26**	画像サイズ(**P.68**)
22	シンクロモード(**P.54**)	**27**	カラーモード(**P.69**)

- **17**〜**27** のファンクション画面で設定する機能の詳細は、各該当ページをご覧ください。



- ***FUNC*** ボタンを押すと、ファンクション画面が表示されます。
- ファンクション画面が表示されている時に ***FUNC*** ボタンを押す、⊗ ボタンを押す、もしくはシャッターボタンを半押しすると液晶モニタが消灯します。

ファンクション画面に表示される情報のうち、「**FUNC 設定 1**」「**FUNC 設定 2**」の項目は十字キーを使ってファンクション画面内で設定を変更することができます。ファンクション画面表示中に OK ボタンを押すと、設定できる項目が切り替わります。（OK ボタンを押すたびに「**FUNC 設定 1**」と「**FUNC 設定 2**」が切り替わります。）



例えば、ISO 感度を 400 にしたい場合、***FUNC*** ボタンを押してファンクション画面を表示させ、OK ボタンを押して「**FUNC 設定 2**」に切り替えます。



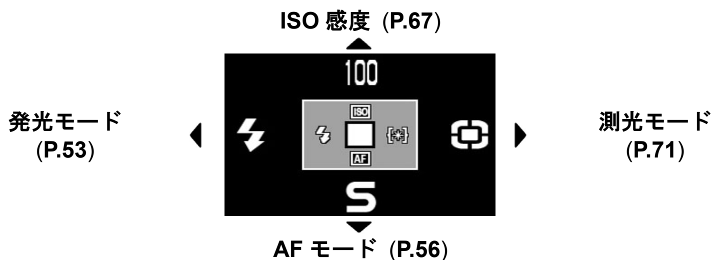
十字コントローラーの ◀▶ キーで ISO 感度を選択し、⬍ ボタンを押して、**400** を表示させます。

- 「**FUNC 設定 1**」の AF ポイントの選択方法は「**AF ポイントの選択**」（**P.57**）をご覧ください。

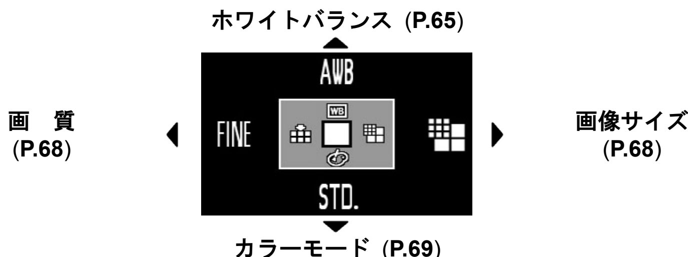
クイックセットメニュー

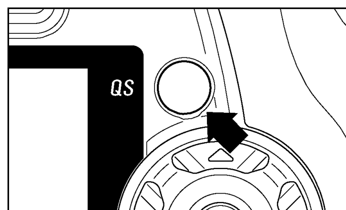
撮影時に頻繁に使う以下の項目は、**QS** ボタンを押すことにより、簡単に設定することができます。

Qs1（クイックセットメニュー 1）



Qs2（クイックセットメニュー 2）





QS ボタンを押すたびにメニュー **1** とメニュー **2** が切り替わります。

変更したい項目のボタンを押して、設定を変更します。



例えば、ISO 感度を 400 にしたい場合、 **QS** ボタンを押してメニュー1 を表示させ、▲ボタンを数回押して **400** を表示させせます。

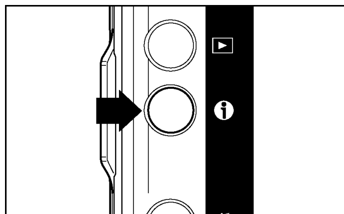
OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると設定が確定され、撮影状態に戻ります。

ホワイトバランスの項目で、(カスタム)を選択した場合、撮影設定メニューの「**カスタム WB**」で最後に取り込まれた設定値で撮影されます。

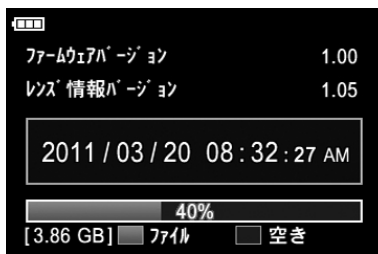
クイックセットメニューの (カスタム)では新しい基準値を取り込むことはできません。「**撮影設定**」(**P.28**)→「**カスタム WB**」より取り込みをしてください。

カメラ情報画面

カメラ情報画面では、カメラのファームウェアバージョン情報、カード情報などが一覧で表示されます。



- 画像の再生時以外にボタンを押すと、カメラ情報画面が表示されます。
- 再度ボタンか、OKボタンを押す、もしくはシャッターボタンを半押しすると液晶モニタが消灯します。



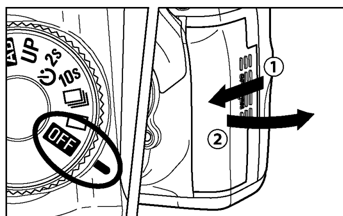


1	電池残量表示
2	現在のカメラファームウェアバージョン
3	現在のレンズ情報のバージョン
4	日付と時刻
5	カードの使用率
6	カードの総容量

カードの入れ方と取り出し方

SD1 は、データの記録にコンパクトフラッシュ™（CF）カード（Type Ⅰ）を使用します。Type II の CF カード、およびハードディスクタイプのカードは使用できません。

カードの入れ方

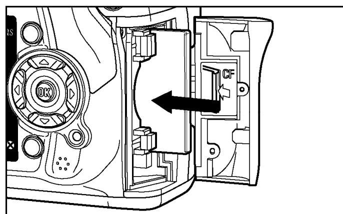


1

D ダイヤルを OFF に合わせます。

2

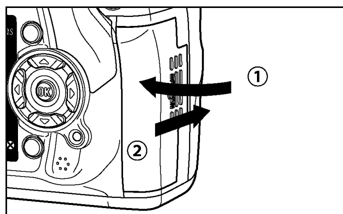
CF カードドアを図のようにスライドさせて開きます。



3

CF カードの裏面を手前側にして、矢印方向に CF カードスロットの奥までしっかりと入れます。

● イジェクトボタンが飛び出します。



4

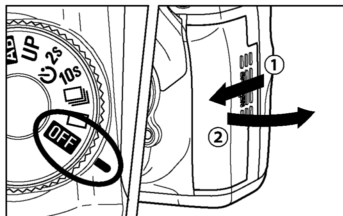
CF カードドアを閉じて、図のようにスライドさせてカチッと音がするまで閉じます。

メ モ

● 必要に応じて使用前にカードを初期化してください。（P.41 参照）

● Ultra DMA (UDMA)対応カード、もしくは高速タイプの CF カードのご使用をおすすめします。

カードの取り出し方



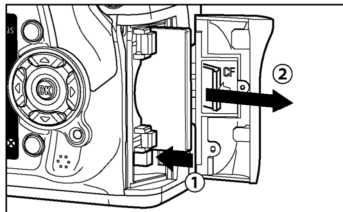
1

D ダイヤルを OFF に合わせます。

- CF カードアクセスランプが消えていることを確認してから OFF にして下さい。

2

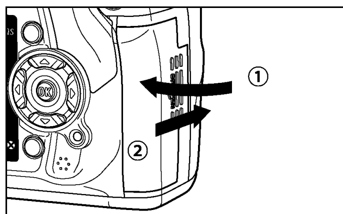
CF カードドアを図のようにスライドさせて開きます。



3

イジェクトボタンを押し込みます。

- CF カードが若干出てきますので、カードを引き抜いて下さい。



4

CF カードドアを閉じて、図のようにスライドさせてカチッと音がするまで閉じます。

警　告 !!

- アクセスランプの点滅中は、次のことは絶対に行わないでください。（アクセスランプの点滅中は、画像の書き込みや読み込み、消去がカメラとカードの間で行われています。次のことを行うと、画像データが消えたり、壊れる原因になります。）
  - ① カードを取り出さないでください。
  - ② 電池を取り出さないでください。
  - ③ カメラに衝撃や振動を与えないでください。

メ　モ

- 電源を OFF にしても、カードへのアクセスが終了するまでは、アクセスランプが点灯し、電源が切れません。

カードの初期化

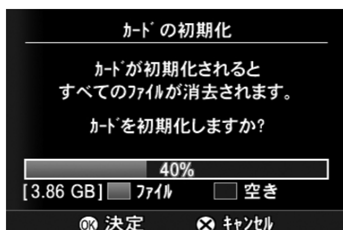
新しいカードは使用する前に初期化しなければなりません。また、他のファイルフォーマットで初期化されている場合や、データが壊れていたり、カードに異常がある場合も使用前に初期化する必要があります。

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、**MENU** ボタンを押して「**カメラ設定**」（**P.28**）の「**カードの初期化**」を選択します。

2

▶ボタンか OKボタンを押して、確認メッセージを開きます。



3

カードを初期化する場合は、OKボタンを、中止する場合は ✕ ボタンを押してください。

警　告 !!

- 初期化はロックされた画像とそれ以外のファイルもすべて消去します。

ご注意 !!

- 他のカメラや機器でカードを初期化すると、SD1 で正常に動作しなかったり、容量が少なくなっていることがあります。画像を最大限記録するには、使用前に SD1 で初期化してください。

カウンター表示について

ファインダー内表示、およびファンクション画面のカウンター部には、現在設定されている記録画素数における、残りの撮影可能枚数を表示します。

● 撮影可能枚数は、画像サイズや画質の設定を変更すると変わります。



例）残り撮影可能枚数 32 枚



● 残り撮影可能枚数が 9999 枚以上の場合は、カウンターは 9999から変化しません。



カードの空き容量がいっぱいになり、残り撮影可能枚数が 0 になると、シャッター速度表示部（FULL と表示）が点滅します。



カードがカメラ本体に入っていない場合は、カウンターが "0" と表示されます。



ファインダー内表示の右端の数字はバッファー残量を示しています。連続して撮影できる最大枚数が表示されます。（連続撮影可能枚数が９枚を超える場合は 9 から変化しません。）

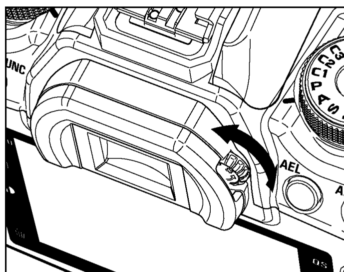


画像データを処理している状態（ビジー状態）では、シャッター速度表示部が図のようにアニメーションし、カウンターに「bUSY」と表示されます。

ビジー状態中はシャッターが切れませんので、表示が元に戻ってから撮影してください。

視度の調整について

ファインダーがハッキリ見えるように視度を調整します。



ファインダーを覗きながら、AF ポイントがはっきりリ見えるように、視度補正ダイヤルを回して調整してださい。

- 視度の調整できる範囲は、－3 ～＋1.5dpt です。

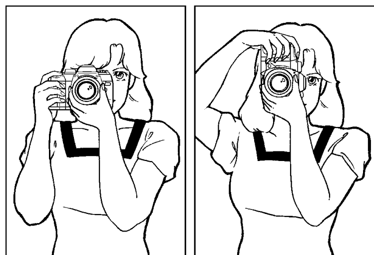
メ　モ

- 視度の調整をしてもファインダーがハッキリ見えない場合は、別売りの視度調整レンズを併用してください。

カメラの構え方

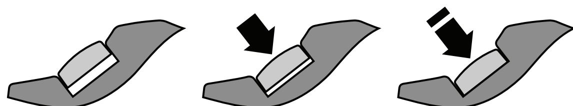
手ブレをおこさずきれいな写真を撮るために、カメラは下記の要領でしっかり構えましょう。

- 右手でグリップを握ります。
- 左手でレンズを下から支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにしてファインダーをのぞきます。
- わきをしめ、片足を半歩踏み出すとより安定します。



シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは 2 段階になっています。軽く押して止まるところが 1 段目で、カメラが撮影状態になり、露出やピントの機構が作動します。この状態までシャッターボタンを押すことを“半押し”と言います。半押しの状態からさらに押し込むとシャッターが切れます。



メ モ

- 撮影をする前に、何回かシャッターを切って“半押し”の感覚をつかむと共に、カメラに慣れるように各部を操作して練習することをおすすめします。

- 通常、カメラにカードが入っていない時に、シャッターボタンを押してもシャッターが切れませんが、シャッターが切れるように変更できます。「**カメラ設定**」（**P.28**）→「**カードなしレリーズ**」の項目より設定します。

禁止 （初期設定）	カメラにカードが入っていない時は、シャッターが切れません。
許可	カメラにカードが入っていない時でも、シャッターが切れます。

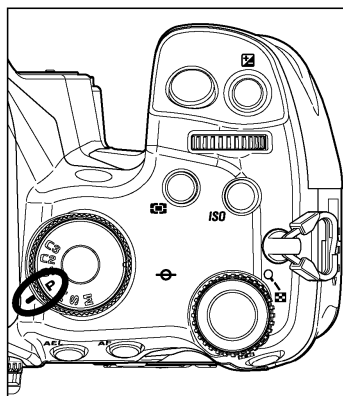
基本撮影

実際に撮影する上での基本的な操作を説明します。

露出のモードを選ぶ

露出を決める 4 つのモードの特徴と操作方法を説明します。

P プログラムオート





気軽な撮影にはこのモードを選びます。被写体の明るさに応じて、カメラが最適なシャッター速度と絞りを決めてくれます。

1

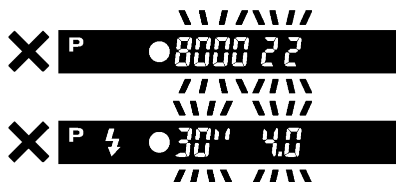
D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源をいれます。

2

モードダイヤルを **P** にします。

3

シャッターボタンを半押してピントを合わせ、ファインダー表示を確認し撮影します。



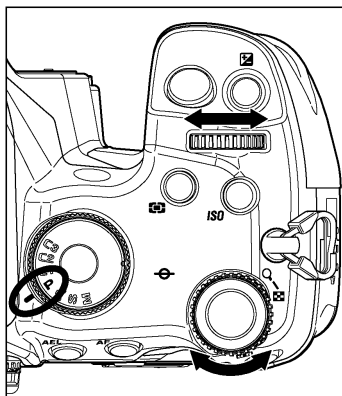
明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度と絞り表示が点滅して警告します。そのまま撮影すると露出が合いません。

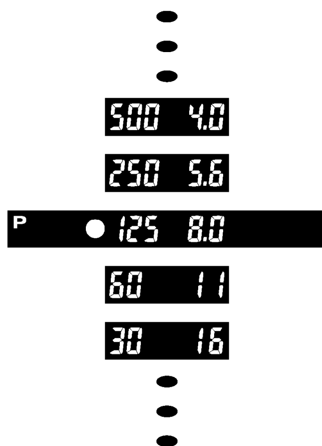


ϟ マークが点滅した時は、シャッター速度が遅くなり、手ブレをおこす可能性があります。フラッシュ撮影（**P.51,81**）をおこなうか、ブレを防止するために、三脚等を利用して撮影してください。

プログラムシフト

カメラが選んだシャッター速度と絞りの組み合わせを同じ露出を保ったままを変更することができます。希望するシャッター速度と絞りの組み合わせの表示がでるまで、**A** ダイヤル（ ）、もしくは **S** ダイヤル（ ）を回してください。

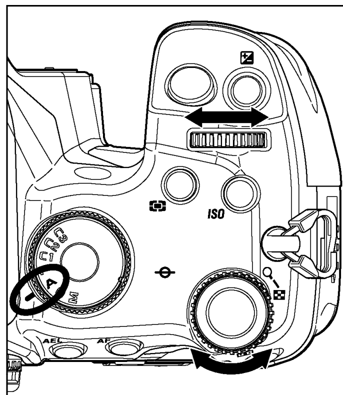




● 撮影後は自動的に解除されます。

A 絞り優先オート

希望の絞りをセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適なシャッター速度を決めてくれます。絞り込んでピントの合う範囲を広げたり、絞りを開けて背景をぼかすなど、絞りの効果を生かした撮影ができます。





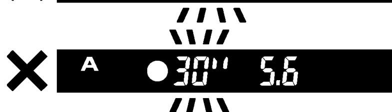
1
D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源をいれます。

2
モードダイヤルを **A** にします。

3
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、**A** ダイヤル（ ）、もしくは **S** ダイヤル（ ）を回して希望の絞りを選びます。

4
ファインダー表示を確認し撮影します。

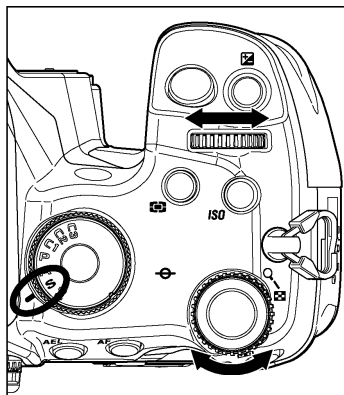




明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎる場合は絞り込み（数字を大きく）、暗すぎる場合は絞りを開けて（数字を小さく）、点滅が消えるように調整してください。

S シャッター速度優先オート

希望のシャッター速度をセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適な絞りを決めてくれます。高速シャッターで動きを止めたり、低速シャッターで動きを表現するなど、シャッター速度の効果を生かした撮影ができます。



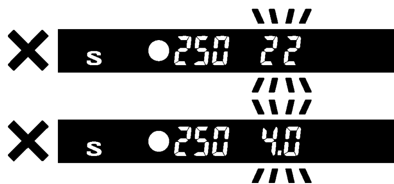
s ●250 5.6

1
D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源をいれます。

2
モードダイヤルを **S** にします。

3
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、**S** ダイヤル（）、もしくは **A** ダイヤル（）を回して希望のシャッター速度を選びます。

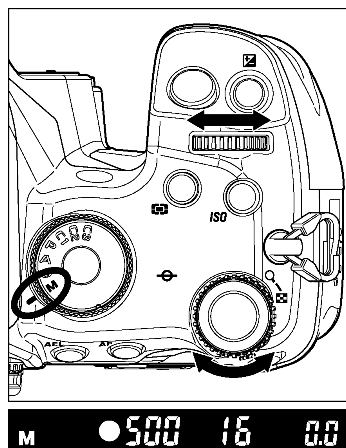
4
ファインダー表示を確認し撮影します。



明るすぎたり暗すぎた場合、絞り表示が点滅して警告します。明るすぎる場合はシャッター速度を速くし、暗すぎる場合はシャッター速度を遅くして、点滅が消えるように調整してください。

M マニュアル露出

自分で希望のシャッター速度と絞りをセットします。カメラの露出メーターの数値に基づいて、わざと露出をずらして表現に工夫を加えたり、市販の外部露出計を利用して露出を決める場合などに使用します。



1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、カメラの電源をいれます。

2

モードダイヤルを **M** にします。

3

シャッターボタンを半押してピントを合わせ、**S** ダイヤル（ ）を回してシャッター速度を選びます。

4

A ダイヤル（ ）を回して絞りを選びます。

5

ファインダー表示を確認し撮影します。

カメラの露出メーターに基づいて露出を決める場合

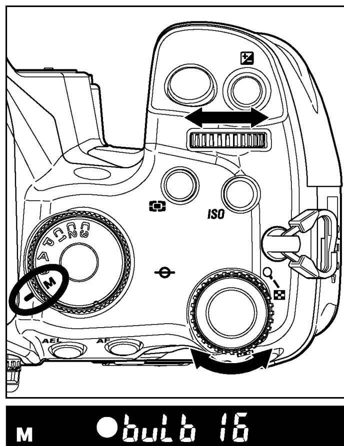
モードダイヤルを **M** にし、シャッターボタンを半押しすると、露出メーターの数値が表示されます。数値の表示例を以下に示します。

– 1.7　適正露出に対して、1 2⁄3 段のマイナスの状態
0.0　適正露出
+ 3.0　適正露出に対して、3 段のプラスの状態

露出メーターの表示は 1／3 段ステップで±3 段まで表示されます。表示範囲を超えた場合、露出メーターの数字が点滅表示されます。

バルブ撮影

夜景の撮影など、長時間シャッターを開けておきたいときに使用します。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。バルブ撮影の時には、しっかりした三脚を使用しましょう。



1

D ダイヤルをドライブエリア（セルフタイマーを除く）に合わせ、カメラの電源をいれます。

2

モードダイヤルを **M** にします。

3

S ダイヤル（ ）を回しシャッター速度表示部に bulb を 表示させせます。

4

A ダイヤル（ ）を回して絞りを選びます。

5

希望の時間に達するまでシャッターを押し続けます。

ご注意 !!

- バルブ撮影での露光可能な時間は、30 秒までとなっています。30 秒経つと、シャッターボタンを押したままでも、自動的にシャッターが閉じます。
- セルフタイマーとバルブ撮影は併用できません。バルブ撮影がセットされた状態で、D ダイヤルをセルフタイマーに合わせた場合、1/180 秒（画像情報上は 1/200 秒と表示されます）でシャッターが切れます。

- 拡張モードに設定することにより、バルブ撮影の露光可能時間を 120 秒まで拡張することができます。

「**カメラ設定**」（**P.28**）→「**拡張モード**」より「**入**」に設定してください。

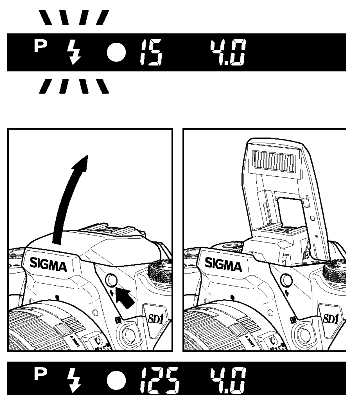
ご注意 !!

- 拡張モードで拡張されたバルブ秒数で撮影した場合、ノイズの増加等により、画質が低下する場合があります。

内蔵フラッシュを使う

このカメラは夜間の撮影に便利な S-TTL オート制御小型フラッシュを内蔵しています。

内蔵フラッシュ撮影



P モードの時、手ブレが生じやすい状況になると、ファインダー内に ϟ マークが点滅します。このような時は内蔵フラッシュの使用をおすすめします。

1

ϟ ボタンを押して、フラッシュをポップアップさせます。

2

ファインダー内の ϟ マークを確認して撮影します。

- フラッシュをポップアップさせると同時に充電が始まります。充電中はファインダー内の ϟ マークは消灯しています。充電完了と同時に ϟ マークが点灯します。
- 充電中はシャッターが切れません。
- フラッシュ撮影を終了したら、上部を押して内蔵フラッシュを収納してください。
- 連続して内蔵フラッシュを使用すると、グリップが若干温かくなることがありますが異常ではありません。

ご注意 !!

- レンズにフードを装着すると内蔵フラッシュの光がさえぎられ、写真に影が大きく写り込むことがあります。また外径の大きいレンズや全長の長いレンズでも同様の現象が発生することがあります。フードをはずすか、別売りの専用外部フラッシュを使用してください。

ご注意 !!

- 内蔵フラッシュを連続して発光させると、発光部を保護するため、一時的に内蔵フラッシュが使用できなくなります。少し時間をおくと、再度使用できるようになります。

各露出モードでの内蔵フラッシュ撮影について

P モード

被写体の明るさやレンズの焦点距離に応じて、最適なシャッター速度(1/30～1/180 秒の範囲)と絞り値が選択されます。明るい場所ではデーライトシンクロとなり、被写体とバックのバランスのとれた露出がえられます。シャッター速度と絞り値が点滅表示された時は、露出オーバーとなりますのでご注意ください。暗い場所で絞りが連動範囲を超えた場合でも、絞り開放で被写体が適正となるように自動調光されます。

A モード

希望の絞りをセットすると、同調速度の範囲内（1/180 秒以下）で最適なシャッター速度が選択されます。明るい場所ではデーライトシンクロとなり、被写体とバックのバランスのとれた露出がえられます。フラッシュ同調最高速度が点滅表示されたときは露出オーバーとなりますのでさらに絞り込んでください。

S モード

希望のシャッター速度をセットすると、最適な絞り値が選択されます。シャッター速度は同調速度の範囲内（1/180 秒以下）で選択できます。範囲を超えた高速シャッターをセットしても、フラッシュ撮影中は自動的に同調速度に修正されます。明るい場所ではデーライトシンクロとなり、被写体とバックのバランスのとれた露出がえられます。レンズの最小絞りが点滅表示された場合は露出オーバーとなりますのでご注意ください。

M モード

絞りと同調速度範囲内のシャッター速度（1/180 秒以下）を選択できます。範囲を超えた高速シャッターをセットしても、フラッシュ撮影中は自動的に同調速度に修正されます。露出メーターが適正の状態で撮影すると、被写体とバックのバランスのとれた露出がえられます。露出メーターがマイナス表示された状態で撮影すると、被写体は適正となりますが、バックは暗くなります。露出メーターがプラス表示された状態で撮影すると被写体もバックも露出オーバーとなりますのでご注意ください。

ご注意 !!

- **P**、**A** モード時にシャッター速度が 1/200 秒と表示された場合、実際は 1/180 秒で制御されます。**S**、**M** モード時にシャッター速度を 1/180 秒にセットしたい場合は、1/200 秒を選択してください。

フラッシュ機能の設定

内蔵フラッシュは、通常のフラッシュ撮影のほかにも多彩な機能を備えています。

フラッシュモード

通常発光モード、赤目緩和モード、ワイヤレスフラッシュモードの選択ができます。

クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

ϟ（初期設定）	**通常発光モード** 内蔵フラッシュをポップアップした時、通常の発光が行われます。 ● 通常はこのモードに設定してください。
👁	**赤目緩和モード** フラッシュを使用して人物を撮影すると、瞳が赤く写ることがあります。赤目緩和モードはシャッターが切れる前に約 1 秒間の赤目緩和ランプの照射を行い、赤目現象を緩和することができます。 ● 専用外部フラッシュ EF DG SUPER シリーズを使用するときは、フラッシュ側で設定してください。（EF DG ST シリーズは赤目緩和モードに設定できません。）
C1～C3	**ワイヤレスフラッシュモード** 専用外部フラッシュ EF DG SUPER シリーズを使用して、ワイヤレスフラッシュ撮影を行うことができます。詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。

スローシンクロ

P / **A** モード時のフラッシュ撮影では、シャッター速度が手ぶれを起こしにくいシャッター速度に制限されますが、スローシンクロに設定すると、明るさに応じて 30 秒までのスローシャッターで制御されます。夜景と人物の両方に露出の合った写真を撮ることができます。

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**スローシンクロ**」、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

切 （初期設定）	SLOW（取り消し線）	通常撮影モードに設定されます。 ● 通常はこのモードに設定してください。
入	SLOW	スローシンクロに設定されます。

後幕シンクロ撮影（シンクロモード）

スローシンクロで、動いている被写体を撮影すると、通常は被写体の軌跡が動く被写体の前方に写し込まれます。これは、シャッター幕が全開したときにフラッシュが発光するため、フラッシュ発光後～シャッター幕が閉じるまでの軌跡が写し込まれるためです（先幕シンクロ）。後幕シンクロモードを使用すると、シャッター幕が全開した後、閉じるときにフラッシュが発光するため、シャッター幕全開～フラッシュ発光までの軌跡が、動く被写体の後方に写し込まれ、自然な動きが表現できます。

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**シンクロモード**」、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

▶▷ （初期設定）		通常撮影（先幕シンクロ）モードに設定されます。 ■通常はこのモードに設定してください。
▷▶		後幕シンクロモードに設定されます。

● 専用外部フラッシュ EF DG SUPER シリーズを使用するときは、フラッシュ側で設定してください。（EF DG ST シリーズは後幕シンクロに設定できません。）

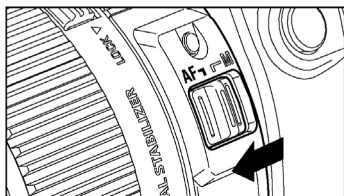
ピントを合わせる

オートフォーカスの設定方法や手動でのピント合わせについて説明します。

オートフォーカスについて

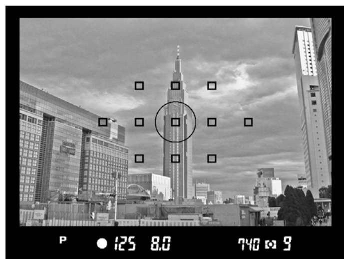
このカメラはAF対応レンズとの組み合わせでオートフォーカスが機能します。また被写体に合わせた2種類のオートフォーカスモードを備えています。
（ミラーレンズ等、特殊なレンズとの組み合わせでは、手動でのピント合わせとなります。）

オートフォーカスによるピント合わせ



1

レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にします。



2

ファインダーで構図を決めてシャッターボタンを半押しします。（AFポイントが自動選択モードの場合、ピントが合ったAFポイントが一瞬赤く光り、ピピッという電子音で知らせます。）

オートフォーカスは、次のような被写体にはピントが合わない場合があります。

- 白い壁など、コントラストのない被写体
- 画面の中央に強い光源がある場合
- ビルの窓など、繰り返しパターンがある場合
- 動きが速い場合
- AFポイント近辺に、近くと遠くのものが混在している場合

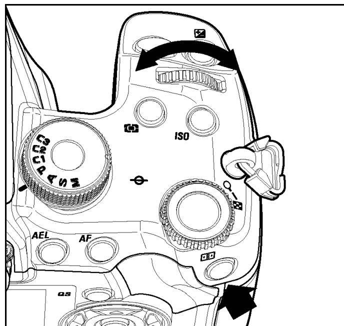
ピントが合わない時は、ほぼ同距離にある被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアル（手動）でのピント合わせを行ってください。

オートフォーカスモードの設定

クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

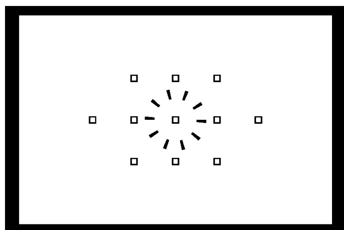
S （初期設定）	**シングル AF モード** ピントが合うまでシャッターが切れませんので、ピンぼけ写真を防ぎます。ピントが合うと、ピントの合った AF ポイントが光り、ファインダー表示部の合焦表示が点灯しピントが固定されます（フォーカスロック）。ピントを合わせ直したい時は、一旦シャッターボタンから指を離して再度半押しをしてください。 ● 通常はこのモードに設定してください。 ● ピントが合わなかった場合は、合焦表示が点滅します。 ● 電子音が不要な場合は消すこともできます。「**撮影設定**」（**P.28**）の「**AF ビープ音**」で、「**切**」に設定してください。
C	**コンティニアス AF モード** シャッターボタンを半押ししている間、オートフォーカスが駆動し続けます。動いている被写体にオートフォーカス機能が追従している場合、動体予測機能により、シャッターが切れる瞬間の位置を予測してピント位置が調整されます。 ● ファインダー内の合焦表示、および電子音による合焦サインは行われません。 ● フォーカスロックはできません。 ● 被写体の条件によってはオートフォーカス機能が追従できない場合があります。 ● AF ポイントが自動選択モードにセットされている場合、最初に選ばれた AF ポイントが被写体を追従し続けます。

AF ポイントの選択



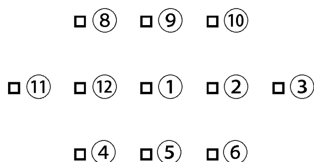
SD1 は、11 点のフォーカスポイントを備えており、カメラが最適なフォーカスポイントを選択する自動選択モードと任意のポイントを選択できる任意選択モードを選択できます。

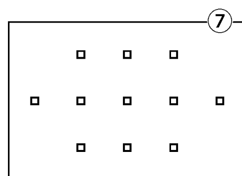
ファインダーを覗き、[AF ポイント] ボタンを押しながら、**A** ダイヤル（ ）を回して任意の AF ポイントを選択します。



- 選択された AF ポイントが赤く光ります。
- 自動選択モードは全部の AF ポイントが赤く光ります。

- **A** ダイヤル（ ）を時計方向に回すと、図のような順番でフォーカスポイントが選択されます。





自動選択モード
（全部の AF ポイントが光ります）

AF ポイントの選択は、ファンクション画面（**P.35**）でも設定できます。***FUNC*** ボタンを押してファンクション画面を表示させると、AF ポイントが選択できる状態になっています。◀▲▼▶ボタンで任意の AF ポイントを選択してください。

- ▲▼ボタンで上下方向、◀▶ボタンで左右方向に選択できます。
- ボタンを同じ方向に押し続けると、自動選択モードに切り換わり、さらに押すと任意選択モードに戻ります。

AF 補助光について

SD1 は、AF 補助光を内蔵していますので、暗い場所でもオートフォーカス撮影が可能です。

- AF 補助光は、AF モードが S (シングル AF モード)、AF ポイントが自動選択、もしくは中央の AF ポイントが選択されているときのみ照射されます。
- AF 補助光は、自動選択時も中央部の AF ポイントに対してのみ有効です。
- AF 補助光が有効な距離は、約 3m です。

ご注意 !!

- レンズにフードを装着すると、AF 補助光がさえぎられ、有効に働かないことがあります。また、外径の大きいレンズや全長の長いレンズでも同様の現象が発生することがあります。
- AF 補助光が連続して照射されると、ランプを保護するため一時的に AF 補助光が照射されなくなります。少し時間をおくと、再度使用できるようになります。
- AF 補助光を別の用途（懐中電灯など）に使用しないでください。連続して照射すると、故障の原因となります。

- AF 補助光の照射を禁止することができます。「**撮影設定**」（**P.28**）→「**AF 補助光**」→「**切**」に設定してください。

フォーカスロック撮影

被写体が AF ポイントに入らない場合の撮影方法です。

1

“AF ポイントの選択”（**P.57**）の項目に従い、任意の AF ポイントを選択します。

2

被写体に選択した AF ポイントを合わせてシャッターボタンを半押しし、ピントを合わせます。

3

シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。

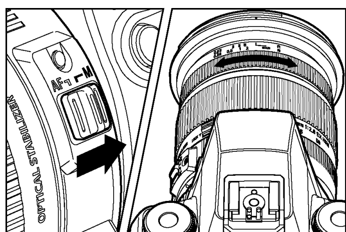


- AF モードが、S (シングル AF モード)のときのみ有効です。C (コンティニアス AF モード）ではフォーカスロックはできません。

- AF ボタンを押してもフォーカスロックができます。ピントを合わせた後、AF ボタンを押したままにするとピントが固定されます。（AF ボタンの詳細は「**AF** 駆動と **AF** ボタンの設定」（**P.60**）をご覧ください。）
- AF ボタンによるフォーカスロックは C (コンティニアス AF モード）でも可能です。

マニュアル（手動）でのピント合わせ

オートフォーカスが苦手な被写体や、フォーカスロックが行えない場合、マニュアルでピントを合わせてください。



1

レンズのフォーカスモードを**M**にします。（ファンクション画面に「**MF**」と表示されます。）

2

被写体がはっきり見えるようにレンズのフォーカスリングを回します。

- F6.3 より明るいレンズでは、ファインダーの合焦表示でピントを確認することができます。シャッターボタンを半押しのまま、フォーカスリングを回すと、ピントが合った位置で合焦表示が点灯します（同時に電子音でも知らせます）。

AF 駆動と AF ボタンの設定

SD1 は AF 撮影を便利にする ***AF*** ボタンを備えています。AF ロック、もしくはオートフォーカスを駆動させる機能を割り当てることができます。

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**AF 駆動設定**」より設定してください。

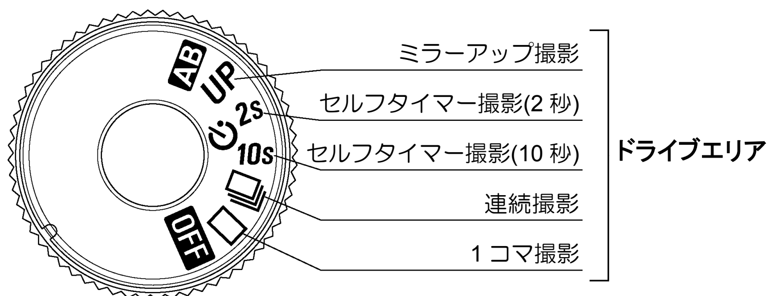
AF 切 / AF-On	不用意に***AF*** ボタンを機能させたくない場合は、このモードを選択してください。 ● シャッターボタンの半押しでオートフォーカスが駆動します。 ● ***AF*** ボタンは機能しません。
AF ロック/ AF-On （初期設定）	通常はこのモードに設定してください。 ● シャッターボタンの半押しでオートフォーカスが駆動します。 ● ***AF*** ボタンはフォーカスロックボタンとして機能します。 ● シャッターボタンの半押しでピントを合わせた後、***AF*** ボタンを押したままにすると、ピントが固定されます。 ● ***AF*** ボタンを押したまま、シャッターボタンを半押ししても、オートフォーカスは駆動しません。
AF AF-On/ 切	オートフォーカスの駆動をシャッターボタンの操作と切り分けができるモードです。 ● ***AF*** ボタンを押すとオートフォーカスが駆動します。シャッターボタンを半押ししても、オートフォーカスは駆動しません。 ● AF モードが S (シングル AF モード)のとき、ピントが合うと***AF*** ボタンから指を離しても合焦表示が点灯したままになります。シャッターは合焦表示が点灯しているときだけ切ることができます。（合焦表示は以下の操作が行われるまで継続されます。「再度 ***AF*** ボタンを押す」「電源を切る」「レンズのフォーカスモードスイッチを **M** にする」） ● AF モードが C (コンティニアス AF モード）のとき、***AF*** ボタンを押し続けている間オートフォーカスが駆動します。シャッターは***AF*** ボタンを押している間だけ切ることができます。

ドライブモードを選ぶ

セルフタイマーなど、カメラの動作モードを説明します。

ドライブエリアについて

D ダイヤルのドライブエリアとは、カメラの動作モードを設定するエリアです。1 コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー、ミラーアップが含まれています。



□1 コマ撮影

シャッターを押して撮影が終了すると 1 コマ分撮影され、次の撮影のスタンバイ状態になります。通常は 1 コマ撮影にセットしてください。

連続撮影

シャッターを押し続けている間、連続撮影ができます。

ご注意 !!

- AF モードが S（シングル AF モード）に設定されている場合、合焦ランプ点灯中は 1 コマ目のピント位置と露出がロックされ連続撮影が行われます。連続撮影中に被写体が動いたり、明るさが変化すると、ピントや露出が合わないことがあります。AF モードが C（コンティニアス AF モード）に設定されている場合、シャッターが切れるたびにピントを合わせますが、レリーズが優先されるため、ピントが合わないままシャッターが切れる場合があります。
- 外部フラッシュを使用して連続撮影をすると、充電中にも撮影が行われるので、場合によってはスローシャッターになることがあります。
- SD1 は連続撮影を可能にするため、撮影された画像データを一旦カメラ内蔵のバッファーメモリに書き込みます。連続撮影モードでシャッターを押し続けた場合、バッファーメモリに空き容量がなくなると、それ以上はシャッターが切れなくなります。画像データがバッファーメモリからカードに転送され、空き容量ができた時点で次の撮影が可能になります。

● 連続撮影時の最大撮影コマ数と速度は、おおむね以下のようになります。

		画像サイズ		
		(HI)	(MED)	(LOW)
画　質	JPEG	7	14	14
		5.0	6.0	6.0
	RAW	7	14	14
		5.0	6.0	6.0
	RAW+JPEG	7	14	14
		5.0	6.0	6.0

上段は最大撮影コマ数、下段は最大撮影速度 (コマ / 秒)です。

セルフタイマー撮影

記念撮影で撮影者も一緒に写りたい場合や、カメラブレを防ぐ目的で使用することができます。

10s にセットするとシャッターボタンを押してから約 10 秒後にシャッターが切れます。
2s にセットするとシャッターボタンを押してから約 2 秒後にシャッターが切れます。

構図を決め、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。さらにシャッターボタンを押し込むとセルフタイマーが作動します。

- セルフタイマーは、「**カメラ設定**」（**P.28**）の「**タイマー音**」が「**入**」に設定されていると、タイマー作動中に電子音が鳴ります。電子音が不要な場合は「**切**」に設定してください。
- セルフタイマーを作動中に解除をしたい場合は、D ダイヤルを回して他のポジションに変更します。
- ファインダーから目を離して操作する場合は、ファインダーキャップを使用してください（**P.18**）。

ご注意 !!

- セルフタイマーとバルブ撮影は併用できません。バルブ撮影がセットされた状態で D ダイヤルをセルフタイマーに合わせた場合、1/180 秒（画像情報上は 1/200 秒と表示されます）でシャッターが切れます。

UPミラーアップ撮影

マクロ撮影など、シャッター作動時のミラーのショックをなくしたい場合、露光前にあらかじめミラーを上げておくことができます。

1

シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせます。さらに押し込むとミラーが上がりピントと露出が記憶されます。

2

シャッターボタンから指を離し、もう１度シャッターボタンを半押しすると露光され、撮影が完了します。

- ミラーアップ撮影の露光のタイミングを変更することができます。「**撮影設定**」（**P.28**）→「**UP モードの動作**」より設定してください。

シャッターボタン （初期設定）	ミラーが上がった後、再度シャッターボタンを半押しすると露光されます。
2 秒後	ミラーが上がった後、2 秒後に露光されます。
10 秒後	ミラーが上がった後、10 秒後に露光されます。

- 「**2 秒後**」「**10 秒後**」は、「**カメラ設定**」（**P.28**）の「**タイマー音**」が「**入**」に設定されていると、タイマー作動中に電子音が鳴ります。電子音が不要な場合は「**切**」に設定してください。

ご注意 !!

- ミラーアップは 30 秒で解除され、ミラーが戻ります。ミラーアップを再開したい場合はもう一度半押しからはじめてください。

警　告 !!

- ミラーアップ状態でカメラを太陽に向けると、集光現象によりシャッター幕が異常に熱くなり、故障や火災の恐れがありますので絶対におやめください。

メ　モ

- ミラーアップ撮影は、別売りのリモートコントローラーRS-31（RS-21、RS-11）を使用すると便利です。詳しくは **P78-80** をご覧ください。

応用撮影

“写真の表現に工夫を加えたい”そんな時に応えてくれる機能の説明をします。

ホワイトバランスの選択（WB）

人間の目は、照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整する能力をもっています。フィルムカメラの場合は、フィルターで調整したり、使用する光源に適したフィルムを選択して対処します。デジタルカメラは、人間の目のような調整能力をソフトウェアでおぎなうことができます。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

- 通常、ホワイトバランスは、初期設定の **AWB**（オートホワイトバランス）により自動調整されますが、マニュアルでセットすることも可能です。
- マニュアルでセットする場合は、照明の種類が明らかになっている必要があります。
- マニュアルでセットできる光源の種類は、下表のとおりです。
- 下表内の「**カスタム**」とは、実際の照明下で撮影し、取り込んだ画像を基準としてホワイトバランスを調整する、カスタムホワイトバランスモードです。（**P.66** 参照）

ホワイトバランスには以下のモードがあります。

	モード	**色温度**	
AWB	**オート** （初期設定）	—	カメラが自動的に最適なホワイトバランスを決定します。 ● 通常はこのモードにセットしてください。
	晴れ	約 5400K	晴天の屋外で撮影するときに選択します。
	日陰	約 8000K	晴天の屋外の日陰などで撮影するときに選択します。
	くもり	約 6500K	曇天の屋外などで撮影するときに選択します。
	白熱電球	約 3000K	白熱電球の照明下で撮影するときに選択します。
	蛍光灯	約 4100K	白色蛍光灯下で撮影するときに選択します。
WB	**フラッシュ**	約 7000K	内蔵フラッシュや別売りの専用外部フラッシュ EF-610 / 530 / 500 DG を使用して撮影するときに選択します。
	カスタム	—	セットアップメニューの「**カスタム WB**」で、実際に取り込んだ画像を基準とし、ホワイトバランスが設定されます（**P.66** 参照）。

クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

●カスタム WB ( ) を選択した場合、「 **撮影設定**」（**P.28**）の「**カスタム WB**」で最後に取り込まれた設定値で撮影されます。

カスタムホワイトバランスの設定

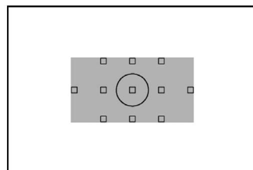
カスタムホワイトバランスは、実際に取り込んだ画像を基準として、ホワイトバランスを設定する方法です。

1

「 **撮影設定**」（**P.28**）→「**カスタム WB**」→ 確認メッセージを開きます。

2

実際に撮影を行いたい照明下で、 基準にしたい白い被写体（白い紙や、白い壁など）にカメラを向けます。ファインダー内の、図に示す範囲に白い部分がいっぱいになるようフレーミングしてください。



3

シャッターボタンを押します（シャッターが切れ、カスタムホワイトバランスの基準が取り込まれます）。

4

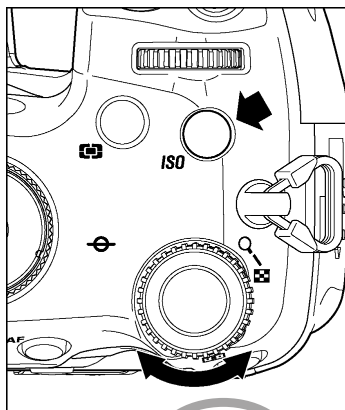
取り込みがうまくいった場合は「**ホワイトバランス画像の取り込みに成功しました。**」とメッセージが液晶モニタに表示されます。「**取り込みに失敗しました！･･･**」とメッセージが出た場合はもう一度、手順 **2** からやり直してください。中止したい場合は ⊗ ボタンを押してください。

ご注意 !!

- 「**ホワイトバランス画像の取り込みに成功しました。**」とメッセージが表示されたあとは、自動的にカスタムモードに設定されますので、そのまま本撮影をしてください。カスタムホワイトバランスモードを中止したい場合は他のモードに変更してください。
- ホワイトバランス画像の取り込みの際は、露出のモードを **P**、**A**、**S** のいずれかにセットしてください。**M** モードでも取り込みは行われますが、正確に取り込めない場合があります。
- ホワイトバランス画像の取り込みの際は、フォーカスモードをマニュアルにセットしてください。オートフォーカスでは取り込み位置がずれて、正確に取り込めない場合があります。

ISO 感度の設定

フィルムカメラで、用途に合わせて感度の違うフィルムを選ぶように、撮影時の感度を選択することができます。（ISO 感度 **P.120** 参照）



ISOボタンを押しながら、**S** ダイヤル（◉）を回して希望の ISO 感度をセットします。

●設定できる ISO 感度は、以下の通りです。

Auto（オート）, **100**, **200**, **400**, **800**, **1600**, **3200**, **6400**

● ISO 感度の設定は、クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）でも設定できます。

メ　モ

● Auto（オート）を選択した場合、明るさによって ISO100 から 800 の間で自動選択されます。

ご注意 !!

● **M** モード時は Auto（オート）を選択できません。**S**、**A**、**P** モード時に Auto（オート）を選択した場合、**M** モード時は ISO100 で撮影されます。

画像の設定

記録画像は、使用目的によって、“画像サイズ”と“画質”を変更することができます。

		画像サイズ		
		(HI) 4704×3136	(MED) 3264×2176	(LOW) 2336×1568
画　質	**RAW** (RAW)	約 45 MB	約 24 MB	約 12 MB
	FINE (JPEG)	約 10 MB	約 5 MB	約 2.5 MB
	NORM (JPEG)	約 5.6 MB	約 2.7 MB	約 1.4 MB
	BASIC (JPEG)	約 4.2 MB	約 2 MB	約 1 MB

＊ファイルサイズは被写体によって変化します。

画質について

SD1 は、付属ソフトによる現像が必要な **RAW** 形式と、汎用性の高い **JPEG** 形式のいずれかで画像を記録することができます。

RAW 形式は、カメラ内でデジタル的な処理は行わず、素材性を重視した記録方式です。付属ソフトによる現像作業が必要ですが、ソフトで汎用性の高い **JPEG** 形式や **TIFF** 形式に変換できます。

画像サイズの設定

クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

（**HI**）（初期設定）	（**MED**）	（**LOW**）

画質の設定

クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

FINE (JPEG)（初期設定）	**NORM** (NORMAL)(JPEG)
BASIC　(JPEG)	**RAW**　(RAW)
RAW+JPG　(RAW+FINE(JPEG)同時記録)	

メ　モ

- **RAW+JPG** に設定した場合、JPEG の画質は **FINE** となります。
- **RAW+JPG** に設定した場合、RAW、JPEG 共、設定された画像サイズで記録されます。

カラーモード

各撮影シーンに最適な色調、コントラストなどを調整したカラーモードを選択できます。また、セピア調、モノクローム調の写真を撮ることができます。

クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）より設定します。

カラーモードには以下のモードがあります。

STD. **スタンダード** （初期設定）	さまざまなシーンに対応する基本的なカラーモードです。
VIVID **ビビッド**	彩度、コントラストが高めに設定され、鮮やかな印象に表現します。
NTR. **ニュートラル**	彩度、コントラストが控えめに設定され、落ち着いた雰囲気を再現します。
ポートレート	肌の階調を柔らかく表現する、人物撮影に適したモードです。
風景	青空や緑をより鮮やかに表現し、メリハリのある風景を再現します。
B/W **白黒**	白黒（無彩色）の写真を撮ることができます。
SEPIA **セピア**	セピア調のモノトーンの写真を撮ることができます。

ご注意 !!

- カラーモードの白黒とセピアは、画質の設定が JPEG（**FINE**, **NORM**, **BASIC**）の時のみ設定できます。
- カラーモードが白黒とセピアに設定されている時に、画質を **RAW**、もしくは **RAW+JPG** に変更すると、カラーモードが自動的に **STD.**（スタンダード）に切り替わります。

メ　モ

- カラーモードは、ピクチャーセッティングを併用することにより、より自分好みの写真に近づけることができます。例えば、ビビッドモードで彩度を+側に調整すると、より鮮やかかさを増すことができます。

画像パラメーターと色空間の設定

記録する画像のパラメーター（コントラスト、シャープネス、彩度）の調整と、色空間（カラースペース）の設定をすることができます。

◑ コントラスト

+側にすると明暗差が強くなり、メリハリの効いた画像になります。–側にすると明暗差が弱くなり、白飛びや黒つぶれを少なくすることができます。

シャープネス

+側にすると輪郭のはっきりとした鮮明な画像になります。–側にすると輪郭のやわらかいソフトな画像になります。

彩度

+側にすると彩度が高くなり、色鮮やかな画像になります。–側にすると彩度が低くなり、落ち着いた画像になります。

カラースペース

一般的な色空間である sRGB か、主に商用印刷など業務分野で使われている Adobe RGB を選択することができます。



1

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**ピクチャーセッティング**」→ ピクチャーセッティング画面を開きます。

2

ボタンで、調整したいパラメーターを選択します。

3

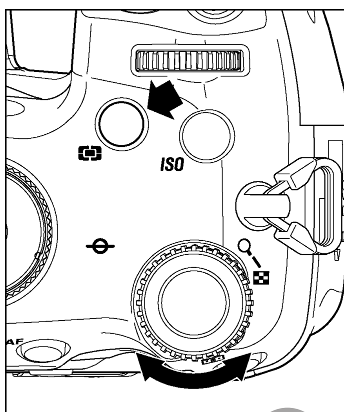
ボタンで、希望の数値を選びます。（カラースペースの場合は、の ボタンで、「**sRGB**」か、「**Adobe RGB**」を選択します。）

4

OK ボタンを押して、設定を完了させます。

- JPEG データの場合、パラメーター調整が行われた後に圧縮処理されます。RAW データの場合、画像には調整が行われずにパラメーター情報が記録されます。付属ソフトでデータを展開したときに反映され、ソフト上でも再調整を行うことができます。
- 通常、カラースペースは sRGB に設定してください。Adobe RGB に設定された画像を扱う場合は、必ず付属のソフトか、DCF2.0 に準拠したソフトを利用してください。
- Adobe RGB で撮影された画像をカメラで再生した場合、フォルダ番号－ファイル番号にアンダーラインが表示されます。

測光モードの変更



被写体の状況に合わせ、4 つの測光方式を選べます。

[⊡] ボタンを押しながら、**S** ダイヤル（⦿）を回して希望の測光方式を選びます。

測光モードの変更は、クイックセットメニュー（**P.37**）、もしくはファンクション画面（**P.35**）でも設定できます。

[⊡] 評価測光

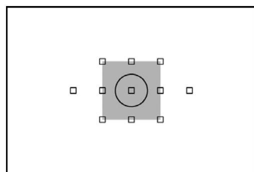
画面を 77 分割し、それぞれの部分の測光情報をもとにカメラが被写体の状況を判断して最適な露出を算出します。逆光や露出決定が難しい光線状態でも最適となる露出を判断します。（通常はこのモードにセットしてください。）

[ ] 中央部重点平均測光

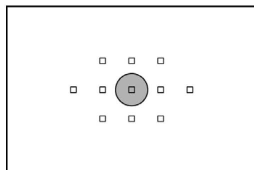
画面中央部分にウエイトを置き、画面全体の平均的な明るさを算出します。順光などの比較的光線状態が良い場合に、最適な露出がえられます。

[■] 中央部分測光

画面の中央部分（AF ポイントを四角で囲んだ範囲）のみの明るさを算出します。周辺の明るさに影響されず、被写体の特定のポイントに露出を定めたいときに有効です。



[•] スポット測光
中央部分測光よりもさらに狭い範囲（スポット測光範囲枠内）の明るさのみを算出します。

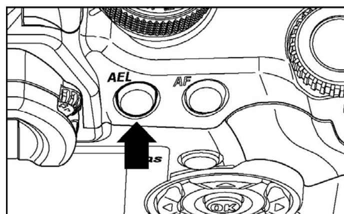


AE ロック

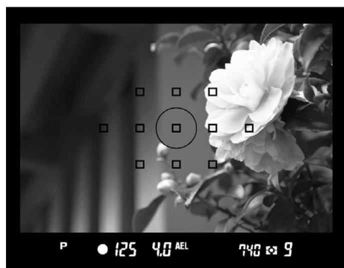
AEL（AE ロック）ボタンを押すと、その時の露出が固定されます。画面中央部に写したい被写体が無い場合などに便利です。特にスポット測光や中央部分測光との組合わせで有効です。



1
露出を合わせたい部分を画面の中央部に合わせシャッターボタンを半押しします。



2
シャッターボタンを半押しのまま、***AEL*** ボタンを押します。（AE ロック中はファインダーのシャッター速度表示と絞り表示が固定され、**AEL** の文字が点灯します。）



3
AEL ボタンを押したまま、好みの構図にしてシャッターを切ります。

- AE ロック中にピントがずれてしまった場合、AE ロックを押したまま再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直すか、AE ロックボタンを押すのをやめ、再度手順 **1** から行ってください。
- ***AEL*** ボタンから指を離しても、AE ロックを継続させることができます。「**撮影設定**」（**P.28**）→「**AEL ボタンの設定**」より設定してください。

継続	***AEL*** ボタンを押すと AE ロックがかかり、再度 ***AEL*** ボタンを押す、もしくは電源を切るまで AE ロックが継続されます。
押す間 （初期設定）	***AEL*** ボタンを押している間 AE ロックがかかり、***AEL*** ボタンから指を離すと AE ロックが解除されます。

半押しレリーズ AEL

シャッターボタンを半押しした時に、露出を固定する、もしくは固定しない設定を選ぶことができます。

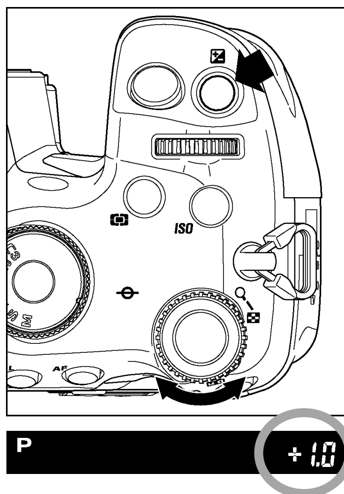
「**撮影設定**」（**P.28**）→「**半押し AEL**」より設定してください。

切	シャッターボタンを半押しした時点では露出が固定されません。全押しした時点の露出で撮影されます。
入 （初期設定）	シャッターボタンを半押しした時点の露出が固定されます。半押し状態で構図を変えても、半押しした時点の露出で撮影されます。

ご注意 !!

- 「**半押し AEL**」は、AF モードが **S** の時のみ有効です。AF モードが **C**、もしくはマニュアルフォーカス時は、半押しレリーズによる AE ロックはできません。

露出補正



カメラが判断した適正露出に対し、意図的に明るめにしたり、暗めにしたい場合、この機能を使います。

ボタンを押しながら、**S** ダイヤル（ ）を回して補正量をセットします。

露出補正ボタンを押すと、液晶モニタとファインダー内に **0.0** と表示されます。**+**を点灯させると明るめ（露出オーバー）、**−**を点灯させると暗め（露出アンダー）となります。

- 補正量は 1／3 段ピッチで、±3 段までできます。
- 例えば**+1.0** とセットすると、**A** モードの時はシャッター速度が 1 段遅くなります。**S** モードの時は 1 段絞りが開きます。**P** モードの時はシャッター速度と絞りの双方で調整されます。
- 補正値のセット後は、ファインダー内の補正値が点滅表示されます。

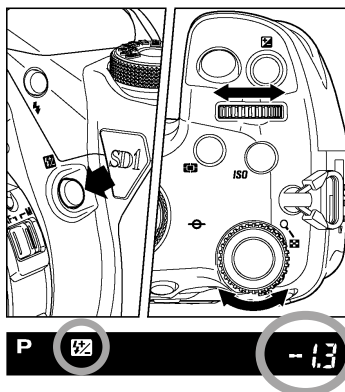
ご注意 !!

- 露出補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら同じ手順で補正量を **0.0** に戻してください。
- 露出補正は **M** モードとの併用はできません。

メ　モ

- フラッシュ撮影時に露出補正をおこなうと、背景の露出とフラッシュの光量の両方に補正がかかります。調光補正を併用することで、背景の露出とフラッシュの光量のバランスを調整することがてきます。（次ページ参照）

調光補正



背景の露出には影響を与えずに、フラッシュの光量のみ補正することができます。

ボタンを押しながら、**A** ダイヤル（ ）、もしくは **S** ダイヤル（ ）を回して補正量をセットします。

ボタンを押すと、液晶モニタとファインダー内に マークと **0.0** が表示されます。**+** を点灯させると明るめ（露出オーバー）、**−** を点灯させると暗め（露出アンダー）となります。

- 補正量は 1／3 段ピッチで、±3 段までできます。
- 補正値のセット後は、ファインダー内に マークが点灯します。補正値は表示されません。 ボタンを押すと、補正量を確認することができます。
- 専用外部フラッシュもカメラ側で調光補正をおこなうことができます。カメラとフラッシュの両方で設定をした場合、カメラ側の設定が優先されます。

ご注意 !!

- 調光補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら同じ手順で補正量を **0.0** に戻してください。

露出補正と調光補正の併用について

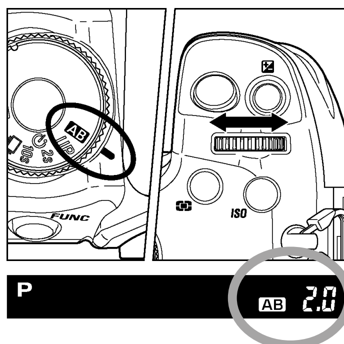
背景を明るめにして、フラッシュ光のあたる被写体は適正にしたいときなど、露出補正と調光補正を併用することによってバランスの調整することができます。

例えば、露出補正量を+2、調光補正量を-2 とセットすると、背景の露出は 2 段オーバー、フラッシュの光量は 0（適正）となります。

- 露出補正と調光補正をセットすると、ファインダー内には マークが点灯し、露出補正量のみ表示されます。

オートブラケット機能

カメラが判断した適正露出をはさんで、明るめと暗めに露出をずらした写真を連続で撮ることができます。



1

D ダイヤルを AB に合わせます。

2

A ダイヤル（）を回して、ずらし量をセットします。（ずらし量は、1／3 段ピッチで±3 段まで設定できます。）

3

D ダイヤルをドライブエリアに戻します。

- 初期設定では、適正 → アンダー → オーバーの順序で撮影されます。
- ファインダー内のカウンター表示部に、オートブラケット撮影の何枚目かが逆算表示されます。（カウンター表示と交互に表示されます）（ファンクション画面表示中は、ファンクション画面のカウンター表示部にも表示されます）

1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目
AB 0.0 Ab-3	AB -2.0 Ab-2	AB +2.0 Ab-1

- 例えば、ずらし量 2.0 にセットした場合の各露出モードでのファインダー内表示は以下のようになります。

	P,A,S	**M**
1 コマ目	**0.0**	測定値※
2 コマ目	**－ 2.0**	測定値に対して－2.0EV の数値
3 コマ目	**＋ 2.0**	測定値に対して＋2.0EV の数値

（※測定値とは設定した露出とカメラが判断した適正値との差の値です。）

● 各モードでの補正は以下のように行われます。

P シャッターと絞りが共に変化します。

A シャッター速度が変化します。

S 絞りが変化します。

M 設定したシャッター速度を中心としてシャッター速度が変化します。

ご注意 !!

● オートブラケット機能は自動的に解除されません。撮影が完了したら同じ手順でずらし量を **0.0** に戻してください。

● オートブラケット機能はフラッシュ撮影と併用できません。フラッシュをポップアップすると、オートブラケットの設定が解除されます。

● **D** ダイヤルを **AB** に合わせた状態では、オートパワーオフや LCD オフ等の省電力機能が働きません。設定後は必ずドライブエリアに戻してください。

● セルフタイマーにセットした場合、3 コマ（5 コマのオートブラケットを選択した場合は 5 コマ）連続撮影となります。

● オートブラケットの途中でドライブモードを変更することができます。ただし、セルフタイマーに変更すると、残りのコマは連続撮影されます。

● オートブラケットの撮影順序、および撮影枚数を５枚に変更することができます。「**撮影設定**」（**P.28**）→「**オートブラケット設定**」より設定してください。

3 0▸−▸+ （初期設定）	３コマ（適正 → アンダー → オーバー）
3 −▸0▸+	３コマ（アンダー → 適正 → オーバー）
3 +▸0▸−	３コマ（オーバー → 適正 → アンダー）
5 0▸−▸+	５コマ（適正 → アンダー → オーバー）
5 −▸0▸+	５コマ（アンダー → 適正 → オーバー）
5 +▸0▸−	５コマ（オーバー → 適正 → アンダー）

● 5 コマのオートブラケットを選択した場合、設定できるずらし量は、最大±1.7 段までとなります。

オートブラケットは露出補正と組み合わせて使用できます。

カメラが判断した適性露出に対して、明るめや暗めな露出を基準にしたオートブラケット撮影が可能です。前記の手順に従って、露出補正とオートブラケットの両方の設定を行ってください。どちらを先にセットしても結構です。

ファインダー内の表示は、露出補正量と、オートブラケットのずらし量の合成された数値が表示されます。

例えば、露出補正量＋1.7、オートブラケットのずらし量を 1.0 とセットした場合の動作、およびファインダー内表示は以下のようになります。

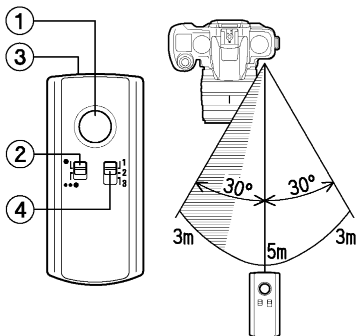
1 コマ目	+ 1.7　露出補正量＋1.7、ずらし量なし
2 コマ目	+ 0.7　露出補正量＋1.7 とずらし量－1.0 の合成値
3 コマ目	+ 2.7　露出補正量＋1.7 とずらし量＋1.0 の合成値

リモコン撮影

別売りのリモートコントローラーRS-31、および RS-21 を使用してシャッターを離れた所から切ることができます。使用可能範囲はいずれもカメラの正面から約 5m、左右 30˚で約 3m です。但し使用レンズによっては、左方向からの有効角度・距離に制限がでる場合があります。

リモコンの各部の名称

①送信ボタン
②ディレイタイム切換えスイッチ
③送信部
④チャンネル選択スイッチ



リモコン撮影手順

リモコン側の設定

1

リモコンのディレイタイム切換えスイッチでディレイタイムを選択します。

● 送信ボタンを押すとすぐにシャッターが切れます。
●●● 送信ボタンを押してから約 3 秒後にシャッターが切れます。

2

チャンネル選択スイッチで、**1・2・3** のいずれかを選択します。

カメラ側の設定

3

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**リモコンモード**」より、リモコンのチャンネルと一致するチャンネルを選択します。

4

構図を決め、シャッターを半押ししてピントを合わせてから、ピントがずれないようにレンズのフォーカスモードスイッチを**M**にします。（AFのままでは他のものにピントが合ってしまうことがあります。）

5

リモコンをもって予定の位置に立ち、リモコンをカメラの受信部に向けて送信ボタンを押します。

6

撮影が終了したら、手順３から同じ手順でリモコンモードを解除します。（**OFF**を選択します）。

- 連続撮影との併用はできません。Dダイヤルが連続撮影にセットされた場合、1コマ撮影となります。
- 強い逆光時や距離が遠すぎる場合、リモコンが作動しない場合があります。リモコン撮影ができないときはセルフタイマーを使用してください。
- ファインダーからの逆入光で露出がずれることがありますので、ファインダーキャップを使用してください。

ご注意 !!

- リモコンモードが設定されていると、オートパワーオフ機能が働かなくなります。電池の消耗を防ぐ為、リモコンを使用しない場合は必ずリモコンモードを解除してください。
- バルブ撮影ではリモコンを使用することができません。バルブ撮影がセットされた状態でリモコンの送信ボタンを押すと、1/180秒（画像情報上は1/200秒と表示されます）でシャッターが切れます。

ミラーアップでの便利な使い方

ミラーアップとの併用時は、1回目のレリーズをカメラのシャッターボタンで行い、2回目のレリーズにリモコンを使用すると、ピントをマニュアルにする手間がはぶけます。

1

Dダイヤルを ***UP*** に合わせ、リモコンモードをセットます。

2

カメラのシャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせます。さらに押し込むとミラーが上がりピントと露出が記憶されます。

3

リモコンをカメラの受信部に向け、送信ボタンを押して撮影します。

リモコンの電池交換 (RS-31)

リモコンの電池が消耗すると、リモコン撮影ができなくなります。撮影ができなくなった時は電池の交換をしてください。電池はリチウム電池 3V（CR2032）を1個使用します。

1

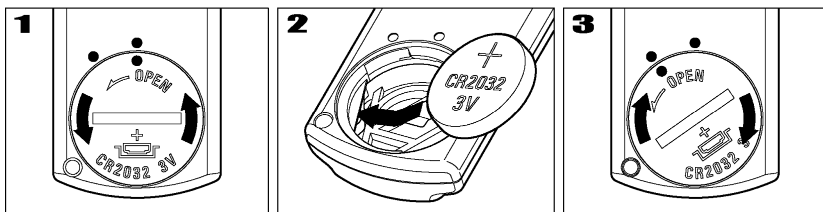
電池蓋をコインなどで左方向に止まるまで回し取り外します。

2

電池の＋の面を上にして新しい電池を入れます。

3

本体と電池蓋の指標を合わせ､コインなどで右方向に止まるまで回し取り付けます。

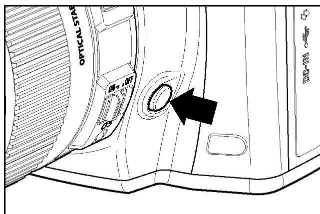


ご注意 !!

- 電池を交換しても作動しないときは、電池の向きが逆か、電池の性能が低下しているおそれがあります。

プレビューボタンと被写界深度

プレビューボタンを押すとその時の絞り値まで絞り込み、ピントの合う範囲を確認できます。



被写界深度の確認や、ボケの具合を確認することができます。ボタンから指をはなすと絞りは開放に戻ります。押している間は AE ロックが働いています。

被写界深度について

被写体にピントを合わせたときに、その被写体の前後にもピントの合っているように見える範囲があります。被写界深度とはこの鮮明に写るように見える範囲のことを指します。

被写界深度には次のような性質があります。

絞り込むほどに深くなる（ピントの合っているように見える範囲が広くなる）
同じレンズで同じものを撮影したとき、F8 と F22 では F22 の方が深い。

焦点距離が短い（広角）ほど深くなる
同じ距離の被写体を同じ絞りで撮影したとき、28mm と 50mm では 28mm の方が深い。

撮影距離が遠いほど深くなる
同じレンズで同じ絞りで撮影したとき、2m と 5m では 5m の方が深い。

フラッシュ撮影について

エレクトロニックフラッシュ EF-610 **DG** SUPER SA-STTL（別売）

エレクトロニックフラッシュ EF-610 **DG** ST SA-STTL（別売）

別売のシグマエレクトロニックフラッシュ EF-610 **DG** SUPER SA-STTL、または EF-610 **DG** ST SA-STTL を装着することにより、S-TTL 方式による自動調光撮影や、マルチ発光撮影 (EF-610 **DG** SUPER SA-STTL のみ) などの多彩なフラッシュ撮影が可能となります。

EF-610 DG SUPER SA-STTL, EF-610 DG ST SA-STTL の特長

- 最大ガイドナンバー61（ISO100 / m、105mm 時）の大光量。
- 撮影レンズの焦点距離（24-105mm）に合わせて照射角が自動的に変化するオートズーム機能。内蔵のワイドパネルを使用することにより、17mm の画角まで対応します。
- 上方向、左右方向に発光部を動かすことのできるバウンスヘッド機能。さらに下方向に 7°動かすこともできますので、近接撮影時に威力を発揮します。
- 同調速度に左右されず、最高シャッター速度 1/8000 秒まで対応可能な **S-TTL AUTO FP** 発光 (EF-610 **DG** SUPER SA-STTL のみ)。
- 他のシグマ SD シリーズ、および SA-7、SA-9 にもご使用になれます。

ご注意 !!

- SD1 に使用できるクリップオンタイプのフラッシュは、シグマ用で、なおかつ名称に **DG** と表記されているフラッシュのみです。**DG** の表記のないシグマ用のフラッシュ、シグマ製の他メーカー用のフラッシュ、および他メーカーのフラッシュは使用できません。

フラッシュ撮影において SD1 の性能をフルに発揮させるには、EF-610 **DG** SUPER SA-TTL もしくは EF-610 **DG** ST SA-STTL をご使用ください。以前に発売されたシグマデジタルカメラ用フラッシュもご使用になれますが、機能や性能に制限があります。以下の表をご参照ください。

SD1 で使用可能なフラッシュ

EF-610 **DG** SUPER SA-STTL	○	EF-610 **DG** ST SA-STTL	○
EF-530 **DG** SUPER SA-STTL	※1	EF-530 **DG** ST SA-STTL	○
EF-500 **DG** SUPER SA-STTL	※1	EF-500 **DG** ST SA-STTL	○
EF-500 **DG** SUPER SA	※2,3	EF-500 **DG** ST SA	※2
EM-140 **DG** SA-STTL	※1	EF-140 **DG** SA-STTL	○

制限事項

○	制限事項はありません。
※1	**S-TTL AUTO FP** 発光はご使用になれません。マニュアル **FP** 発光でのご使用になります。
※2	AF 補助光の到達距離が短くなり、距離や被写体によってはピントが合わない場合があります。その場合はマニュアルフォーカスでご使用ください。
※3	カメラの露出表示とフラッシュの露出表示が一致しない場合があります。ただし S-TTL 撮影では正常に露出制御されます。 ワイヤレス撮影機能はご使用になれません（スレーブ発光は可能です）。

- SD1 は PC シンクロターミナル（コネクターカバー内）（**P.13**）を使用して、シンクロコード接続のフラッシュを使用することができます。

ご注意 !!

- PC シンクロターミナルを使用してのフラッシュ撮影では、S-TTL による自動調光撮影はできません。
- カメラの露出モードを **M**、シャッター速度を 1/160 秒以下、もしくは **Sync** (1/180)にセットし、ご使用のフラッシュの使用説明書に従って撮影してください。
- シンクロ端子極性が、中央のピンがプラス、外周部がマイナスのもののみ対応しています。逆の極性のものをご使用の場合は市販の変換コード等を利用してください。

警 告 !!

- シンクロ端子電圧が 250V 以上のフラッシュは使用できません。カメラの故障の原因となります。シンクロ端子の仕様につきましては、各メーカーにお問い合わせください。

縦位置情報記録

縦位置で撮影された情報を画像に記録することができます。

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**縦位置情報記録**」より設定してください。

切	縦位置情報を記録しない
入（初期設定）	縦位置情報を記録する

- 縦位置情報が記録された画像は、再生時に自動的に縦方向に回転されて表示されます。
- 縦位置情報が記録された画像をソフトウェア **SIGMA Photo Pro** で開いた場合、自動的に縦方向に回転されて表示されます。
- 縦位置情報が記録された画像を「**再生設定**」（**P.28**）の「**回転**」で向きを変更した場合、その後は変更された状態で表示されます。

- 「▶ **再生設定**」（**P.28**）→「**回転表示**」→「**切**」に設定されている場合、縦位置情報が記録された画像も横方向に表示されます。

ご注意 !!

- カメラを斜めに構えたり、上向き、下向きで撮影した場合、縦位置情報が正しく記録されない場合があります。

カスタムモード

好みの設定を登録し、モードダイヤルで簡単に呼び出すことができます。（3つのパターン登録することができます。）

- 以下の項目の設定を一括登録できます。

撮影機能

露出モード（**P.45**） AF ポイント（**P.57**） 露出補正値（**P.74**）	調光補正値（**P.75**） オートブラケットのずらし量（**P.76**）

QS メニュー

ISO 感度（**P.67**） **AF** モード（**P.56**） 発光モード（**P.53**） 測光モード（**P.71**）	ホワイトバランス（**P.65**） カラーモード（**P.69**） 画　質（**P.68**） 画像サイズ（**P.68**）

撮影設定

ピクチャーセッティング（**P.70**） 縦位置情報記録（**P.84**） AEL ボタンの設定（**P.73**） 半押し AEL（**P.73**） スローシンクロ（**P.54**） シンクロモード（**P.54**） オートブラケット設定（**P.76**）	AF 補助光（**P.58**） AF 駆動設定（**P.60**） A / S ダイヤルの入れ換え（**P.110**） ダイヤルの回転方向反転（**P.110**） ***UP*** モードの動作（**P.64**） リモコンモード（**P.78**）

カメラ設定

拡張モード（**P.50**）

設定の保存



1

上記の項目を一通り好みの状態に設定します。

2

「**カメラ設定**」（P.28）→「**カスタムモードの登録**」より、◀▶ボタンで **C1、C2、C3** のいずれかを選び、OK ボタンを押して確認メッセージを開きます。

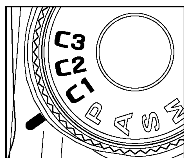
3

確定する場合はOKボタンを、中止する場合は ⊗ ボタンを押してください。

ご注意 !!

- 保存を確定すると、以前に保存されていた設定は、新しい設定に上書きされます。

設定の呼出し



モードダイヤルを **C1**、**C2**、**C3** のいずれかに合わせます。



カスタムモード時に、前記項目の設定を一時的に変更することができます（露出モードを除く）。

変更するとファンクション画面のカスタムモード表示部に★マークが点灯します。

以下の操作により、変更した設定内容はクリアされます。

- 電源を OFF にする（オートパワーオフ機能で OFF になった場合も含む）
- モードダイヤルを他のポジションに変更する

撮影画像の再生、消去、編集

ここでは、撮影した画像の再生、消去、編集の仕方について説明します。

メ　モ

- 他のカメラで撮影した画像や、ファイル名を変更したり、カード内の DCIM フォルダから移動させた画像ファイルは、表示できない場合があります。画像ファイルの名前や番号についての詳しい内容は、**P.108**「ファイル番号の設定」をご覧ください。

撮影画像確認

SD1 では、撮影後すぐに液晶モニタに画像を自動的に表示させることができます。この機能は、露出や構図を即座にチェックするのに役立ちます。

撮影画像確認時間の設定

撮影直後の画像を液晶モニタに表示させる時間を設定します。

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**撮影画像確認**」より設定します。

撮影画像確認時間設定オプション

切	表示しません
eco **2 秒** （初期設定）	2 秒間表示します。 （液晶モニタが 2 秒後に自動的に消えます。）
5 秒	5 秒間表示します。
10 秒	10 秒間表示します。

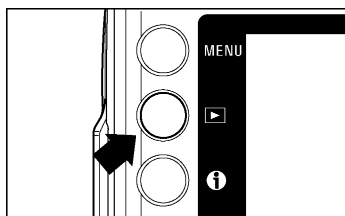
- eco マークは、電池の消耗を抑える推奨設定です。

メ　モ

- 手動で撮影画像確認画面の表示を消す場合は、✖ボタンを押すか、シャッターボタンを半押ししてください。
- 撮影画像確認画面では、拡大表示、「▶ **再生設定**」の各設定、他の画像への切りかえはできません。
- 撮影画像確認画面は、**88** ページの **1 画像再生**、および **91** ページの**画像情報を見る**で設定された状態で表示されます。

撮影画像の再生

SD1 で撮影した画像を様々な方法で再生することができます。



SD1 で撮影した画像を再生するには、本体背面の ▶ボタンを押します。カードに最後に記録された画像が、1 画像再生で液晶モニタに表示されます。

本体背面の ▶ボタンを押すと、液晶モニタが点灯し画像が再生されます。

- 再度、▶ボタンを押す、もしくは ✖ボタンを押すと液晶モニタが消灯します。

メ　モ

- 撮影画像を再生してから新たに撮影した画像がない場合は、最後に再生した画像が表示されます。
- カードに画像がない場合は、”**画像がありません**” と警告表示されます。
- 画像の再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

1 画像再生

記録された画像を見るには、本体背面の ▶ ボタンを押します。

1 画像再生中は：

- **A** ダイヤル（ ）を右に回すと次の画像、左に回すと前の画像を表示します。
- ▶ボタンを押すと、次の画像を表示します。
- ◀ボタンを押すと、前の画像を表示します。
- ⬍ ボタンを押すと、情報表示が切換ります。情報表示は以下の 2 つのパターンと、情報表示無しを選択できます。

電池残量表示　**画像サイズ**　**画質**　**フォルダ番号 / ファイル番号**



ファイル順 / ファイル数　**年 / 月 / 日**　**時 / 分 / 秒**





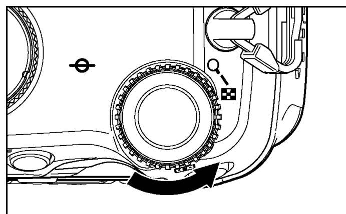
ファイル順 / ファイル数　**シャッター速度**　**絞り値**　**ISO 感度**

メ　モ

- ◀▶ボタンを押したままにすると、より速く画像を切り替えることができます。画像の切替えは、ボタンを離すまで自動的に行われます。
- 最初と最後の画像はリンクしています。最初の画像の前は最後の画像、最後の画像の次は最初の画像が表示されます。

拡大して表示する（拡大表示）

画像を拡大表示することができます。画像を詳細に見たり、ピントのチェックに便利です。



1 画像再生中に **S** ダイヤル（◉）を 🔍 側に回します。



拡大率は以下の通りです。
等倍→**X1.25→X1.6→X2.0→X2.5→X3.15→X4.0→X5.0→X6.3→X8.0→X10.0**

拡大表示中は：

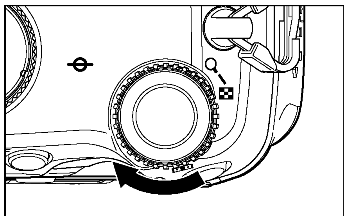
- **S** ダイヤル（◉）を 🔍 側に回すとより拡大されます。▦ 側に回すと縮小されます。
- **A** ダイヤル（⏶）を右に回すと次の画像、左に回すと前の画像を表示します。
- ⬍ ボタンで上下方向に、◀▶ ボタンで左右方向に再生部分を移動できます。
- ⊗ ボタンを押すと等倍に戻ります。
- OK ボタンを押すと等倍に戻ります。

ご注意 !!

- 拡大表示中は ◀▶ ボタンで画像を切替えることはできません。**S** ダイヤル（◉）を ▦ 側に回す、もしくは ⊗ ボタンを押して等倍（1 画像再生）に戻ると、画像の切替えができるようになります。

9 画像表示（コンタクトシート表示）

9 画面表示の「コンタクトシート」では、複数の画像を一度に表示することができます。



1 画像再生中に **S** ダイヤル（ ）を 側に回します。



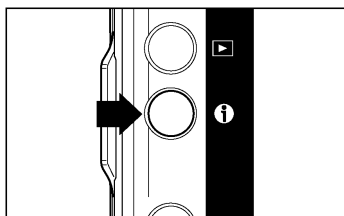
コンタクトシート表示では：

- ボタンで他のサムネイル画像の選択ができます。
- **A** ダイヤル（ ）を右に回すと次のサムネイル画像、左に回すと前のサムネイル画像が選択されます。
- **S** ダイヤル（ ）を 側に回すと、選択されているサムネイル画像が 1 画像再生されます。
- ボタンを押すと 1 画像再生に戻ります。

メ　モ

- 最初のページと最後のページはリンクしています。最初のページの前は最後のページ、最後のページの次は最初のページが表示されます。

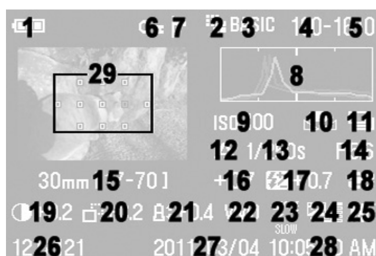
画像情報を見る



ℹボタンを押すと、画像ごとの追加情報が表示されます。シャッター速度や絞り値以外に、測光モードやフォーカスモードなど、詳細な情報が表示されます。（画像情報スクリーン）

1 画像再生、コンタクトシート表示で、ℹボタンを押します。





1	電池残量表示
2	画像サイズ
3	画質
4	フォルダ番号
5	ファイル番号
6	ロック　※1
7	マーク　※1
8	ヒストグラム
9	ISO 感度
10	ホワイトバランス
11	ドライブモード
12	露出モード
13	シャッター速度
14	絞り値
15	焦点距離

16	露出補正値
17	調光補正値
18	測光モード
19	コントラスト
20	シャープネス
21	彩度
22	カラーモード
23	発光モード　※1
24	オートブラケット　※1
25	フォーカスモード　※2
26	ファイル順 / ファイル数
27	年月日
28	時分秒
29	フォーカスポイント ※3

※1 設定時のみ表示されます。
※2 マニュアルフォーカス設定時のみ表示されます。

※3

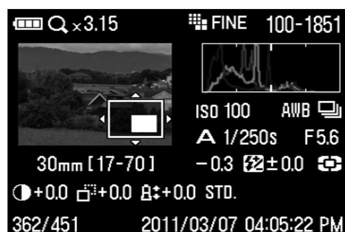
AF モードの場合、合焦したフォーカスポイントが赤く表示されます。合焦しない状態で撮影された場合は赤く表示されません。

MF モードの場合、合焦表示が点灯した状態で撮影するとフォーカスポイントが赤く表示されます。合焦表示が点灯しない状態で撮影された場合は赤く表示されません。

画像情報スクリーンでは：

- A ダイヤル（ ）を右に回すと次の画像、左に回すと前の画像を表示します。
- ▶ボタンを押すと、次の画像を表示します。
- ◀ボタンを押すと、前の画像を表示します。
- 再度 ボタンを押すと、直前の再生状態に戻ります。
- ボタンを押すと液晶モニタが消灯します。

画像情報スクリーンでの拡大表示



画像情報スクリーンの表示中に S ダイヤル（ ）を 側に回すと画像が拡大され、特定領域の詳細なヒストグラム情報を見ることができます。

- ヒストグラムについての詳細は次の項目をご覧ください。

画像情報スクリーンでの拡大表示中は：

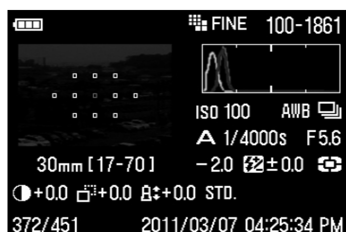
- ボタンで上下方向に、 ボタンで左右方向に再生部分を移動できます。（ヒストグラム値が自動的に変わります。）
- S ダイヤル（ ）を 側に回すとより拡大されます。 側に回すと縮小されます。
- ボタンを押すと、拡大表示を解除しフル画像の画像情報スクリーンが表示されます。（再度、 ボタンを押すと液晶モニタが消灯します。）

ヒストグラム

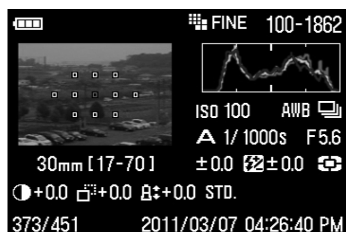
ヒストグラムは、画像の明るさの分布をグラフ表示にしたものです。水平軸は明るさのレベルを示し、左方向ほど暗く、右方向ほど明るくなります。垂直軸は各明るさの画素の登場回数を表しています。グラフの分布状態を見ることにより、露出の判断の参考にすることができます。

SD1 のヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。

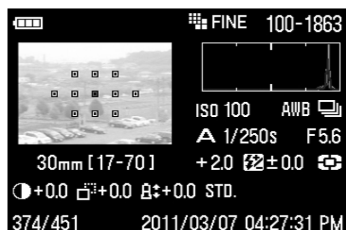
フル画像時のヒストグラムを調べることによって、画像全体の露出を判断することができます。また、拡大表示でのヒストグラムを見ることにより、任意の部分の露出を判断することもできます。



このヒストグラムは、画素の分布が暗い方向にかたより、明るい方向に殆ど存在していません。従って露出不足で全体に暗めの画像であることを示しています。一般に左側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出が不足している場合か、もしくは適正露出でも、暗い部分や暗めの被写体が画面に占める割合が大きく、暗い画素で構成された画像の場合です。



このヒストグラムは、ほぼ均一に画素が分布されており、適正に露出された画像であることを示しています。ただしヒストグラムは、被写体の色や画面に占める割合などによって大きく左右されますので、一概に適正露出であるとは限りません。



このヒストグラムは、画素の分布が明るい方向にかたより、右端に多くの画素が存在しています。従って露出オーバーで全体に明るめ画像であることを示しています。一般に、右側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出がオーバーしている場合か、もしくは適正露出でも明るい部分や明るめの被写体が画面に占める割合が大きく、明るい画素で構成された画像の場合です。

ご注意 !!

- 撮影画像確認時に表示されるヒストグラムは RGB を合わせた値（輝度分布表示）です。
- カラーモードが白黒、およびセピアで撮影された JPEG 画像で表示されるヒストグラムは、RGB を合わせた値（輝度分布表示）です。

露出オーバー警告

露出オーバーで画像が飛んでしまっているハイライト部分を、赤色で警告表示することができます。

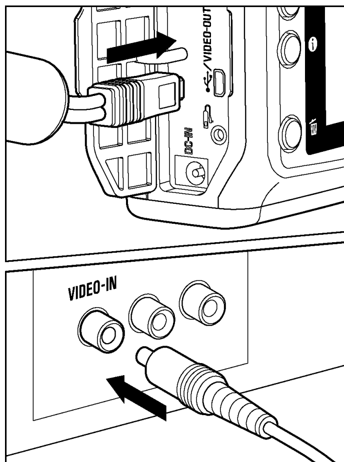
「▶ **再生設定**」（**P.28**）→「**露出警告**」→「**入**」に設定してください。

メ モ

- OKボタンを「露出警告」入／切のショートカットボタンに設定することができます。（**P.104** 参照）OKボタンの設定は、上記セットアップメニューによる「**露出警告**」の設定内容に影響しません。

TV で見る

SD1 では、付属の AV ケーブルを使用してテレビやビデオデッキ、DVD レコーダーなどに接続し、記録した画像をテレビで見たり、ビデオや DVD などに録画することができます。



ビデオ機器との接続

1

コネクターカバーを開きます。

2

AV ケーブルをカメラの<**USB / VIDEO-OUT**>端子と、テレビやビデオデッキのビデオ入力端子に接続します。（黄色のプラグをビデオ入力端子に接続してください。）

3

カメラとビデオ機器の電源を入れます。

警 告 !!

- ビデオ機器との接続には、付属の専用 AV ケーブル以外は使用しないでください。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。

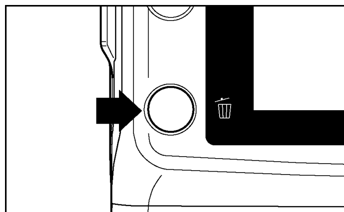
メ モ

- 電池の消耗を防ぐため、別売りの AC アダプターを使用することをお薦めします。
- ビデオ出力のモードは、初期設定では NTSC 方式になっています。PAL 方式 (**P.120** 参照) の機器に接続する場合は、「**カメラ設定**」（**P.28**）→「**ビデオ出力**」より「**PAL**」に変更してお使いください。

画像の消去

カードに記録された画像を消去する方法を説明します。

消去ボタンで消去する



🗑（消去）ボタンでは、現在表示中の 1 画像のみ消去できます。

1

消去したい画像を表示します。

2

🗑ボタンを押します。（「**このファイルを消去しますか？**」と確認メッセージが表示されます）

3

OKボタンを押して消去します。消去しない場合は ✖ ボタンを押します。

ご注意 !!

- 画像がロックされている場合は、「**このファイルはロックされています。**」と確認メッセージが表示され、消去から保護されます。消去したい場合は、はじめにロックを解除してください。(**P.98-100** 参照)
- **RAW+JPG** で記録された画像は、RAW 画像、JPEG 画像共に消去されます。

消去メニューから画像を消去する

消去メニューからは 1 画像、あるいは複数の画像をまとめて消去することができます。

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「▶ **再生設定**」（**P.28**）を開き「**消去**」を選択します。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選択します。

現在のファイル	現在の 1 画像のみ消去します。
マーク画像	カード内に記録されたマークした画像をすべて消去します。（画像のマークについては **P.100 - 102** をご覧ください。）
全画像	カードに記録されたすべての画像を消去します。（ロックされた画像は消去されません。画像のロックについては **P.98 - 100** をご覧ください。）

3

OK ボタン、もしくは ▶ ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

画像を消去する場合は OK ボタンを、消去しない場合は ✖ ボタンを押します。

ご注意 !!

- 「**マーク画像**」および「**全画像**」の消去は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

メ　モ

- ロックとマークがかけられた画像は、「**マーク画像**」では消去できません。ロックされた画像は初めにロックを解除してください。マークされた画像はロックされない限り消去から保護されません。
- 画像以外のファイルや、ロックされた画像を含むすべてのファイルを消去する場合は、セットアップメニューの「**カードの初期化**」を行います。（**P.41** 参照）

再生時のその他の機能

スライドショー、ロック、マーク、回転などの機能を説明します。

画像をロックする



ロックは、誤って画像を消去することを防ぎます。
（ロックした画像を消去する場合は、ロックを解除しなければなりません。）

ロック設定オプション

ロック／ロック解除	現在選択されている画像のみをロックします。既にロックされている場合は、「ロック解除」と表示されます。
ロック	マークされた画像をすべてロックします。 （画像のマークは **P.100 - 102** をご覧ください。）
全ロック	すべての画像をロックします。
ロック解除	マークされた画像をすべてロック解除します。 （画像のマークは **P.100 - 102** をご覧ください。）
全ロック解除	すべての画像のロックを解除します。

警 告 !!

- ロックされていても、カードの初期化を行うと画像は消去されます。カードの初期化を行うときは十分注意してください。

メ モ

- ロックされた画像は、コンピューターでは「読み取り専用」と表示されます。

1 画像ロック

1

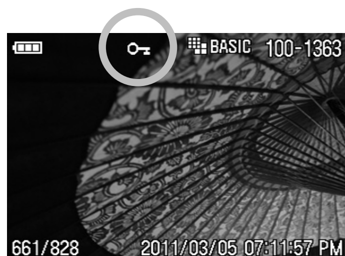
ロックしたい画像を表示します。

2

MENU ボタンを押して「▶ **再生設定**」（**P.28**）を開き「**ロック**」を選択します。（サブメニューのオプションが「**ロック**」が選択された状態になっています）

3

OKボタン、もしくは ▶ボタンを押します。



- ロックされた画像に 🔑 マークが表示されます。

メ　モ

- ロックを解除するには、ロックされた画像を選択し、上記と同じ手順で解除します。

複数画像のロック

1

画像の表示中に MENU ボタンを押して「▶ **再生設定**」（**P.28**）を開き「**ロック**」を選択します。

2

サブメニューで「**マーク画像のロック**」、もしくは「**全ロック**」を選択します。

3

OK ボタン、もしくは ▶ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

ロックする場合は OKボタンを、ロックしない場合は ✖ ボタンを押します。

- ロックされた画像にはすべて、🔑 マークが表示されます。

メ　モ

- 複数の画像をロック解除するには、ロックメニューの「**全ロック解除**」か「**ロック解除**」を選択します。
- OK ボタンを画像ロックのショートカットボタンに設定することができます。（**P.104** 参照）

（P.104 参照）

ご注意 !!

- 「**ロック**」および「**ロック解除**」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

画像をマークする



画像をマークすると、お気に入りの画像の区分け、スライドショー用の画像の選別、消去メニューの「マークしたファイルをすべて消去」（**P.96-97**）で消去する等、画像の選別に便利です。

マーク設定オプション

マーク／マーク解除	現在選択されている画像のみマークします。既にマークされている場合は、「**マーク解除**」と表示されます。
全画像マーク	すべての画像をマークします。
全画像マーク解除	すべてのマークされた画像をマーク解除します。

メモ

- カメラでマークした画像は、**SIGMA Photo Pro** でもマーク状態と表示されます。

1 画像マーク

1

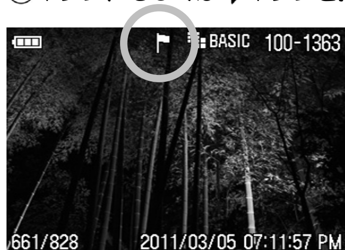
マークしたい画像を表示します。

2

MENU ボタンを押して「▶ **再生設定**」（**P.28**）を開き「**マーク**」を選択します。（サブメニューのオプションが「**マーク**」が選択された状態になっています）

3

OKボタン、もしくは ▶ボタンを押します。



- マークされた画像に マークが表示されます。

メモ

- マークを解除するには、マークされた画像を選択し上記と同じ手順で解除します。
- OKボタンを画像のマークのショートカットボタンに設定することもできます。（**P.104** 参照）

全画像マーク

1

画像の表示中に MENU ボタンを押して「▶ **再生設定**」（**P.28**）を開き「**マーク**」を選択します。

2

サブメニューで「**全画像マーク**」を選択します。

3

OK ボタン、もしくは ▶ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

マークする場合は OKボタンを、マークしない場合は ✖ ボタンを押します。

● マークされた画像にはすべて マークが表示されます。

メ　モ

● マークされた画像をすべて解除するには、マークメニューの「**全画像マーク解除**」を選択します。

ご注意 !!

● 「**全画像マーク**」および「**全画像マーク解除**」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

画像を回転する



画像の表示方向を回転させることができます。

回転設定オプション

回転	現在選択されている画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。
回転	現在選択されている画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。

1

回転したい画像を表示します。

2

MENU ボタンを押して「**再生設定**」（**P.28**）を開き「**回転**」を選択します。

3

サブメニューで、回転方向（反時計回り「**回転**」あるいは時計回り「**回転**」）を選択します。

4

画像を回転させる場合は OKボタンを、しない場合は ✖ボタンを押します。

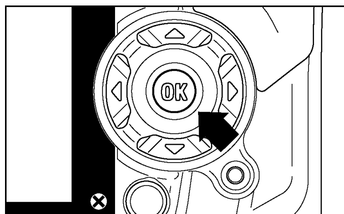
メ　モ

- 180 度回転する場合は同じ方向に 2 回、回転させます。
- 元に戻すには、反対方向に回転させます。
- OKボタンを画像回転のショートカットボタンに設定することもできます。（**P.104** 参照）
- カメラで回転させた画像は、**SIGMA Photo Pro** でも同じ向きで表示されます。

ご注意 !!

- 「▶ **再生設定**」（**P.28**）の「**回転表示**」が「**切**」に設定されている場合、画像回転メニューは選択できません。

OKボタンに機能を割り当てる（ショートカットボタン）



Ⓞボタンに、再生に関する機能を割り当てることができます。よく使う機能を割り当てて、1アクションで簡単に行うことができます。

「▶ **再生設定**」（**P.28**）→「**OKボタンの設定**」より設定します。

OKボタンに割り当て可能な機能

ロック/ロック解除	ロックしていない画像上でⓄボタンを押すとロックされます。既にロックされている画像上でⓄボタンを押すとロックが解除されます。
マーク/マーク解除	マークしていない画像上でⓄボタンを押すとマークされます。既にマークされている画像上でⓄボタンを押すとマークが解除されます。
回転 ↻	Ⓞボタンを押すたびに、画像を右回り（時計方向）に90度回転します。
回転 ↺	Ⓞボタンを押すたびに、画像を左回り（反時計方向）に90度回転します。
露出警告	Ⓞボタンを押すたびに露出警告表示のON/OFFが繰り返されます。

● 割り当てた機能を解除するには、「**なし**」に設定してください。

ご注意 !!

● Ⓞボタンに「**回転**」を割り当てた場合、「▶ **再生設定**」（**P.28**）の「**回転表示**」が「**切**」に設定されていると、Ⓞボタンを押しても画像の回転は実行されません。

スライドショーを見る

SD1 のスライドショー機能を使用すると、すべての画像あるいは選択した画像のみを自動的に再生します。

スライドショーオプション

全画像	すべての画像を再生します。
ロック画像	ロックされた画像のみ再生します。
マーク画像	マークされた画像のみ再生します。
スライドショーの設定	表示間隔の設定、繰り返しのする/しないを設定します。

スライドショーの見方

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「▶ **再生設定**」(**P.28**)を開き「**スライドショー**」を選択します。

2

サブメニューで「**全画像**」「**ロックのみ**」「**マークのみ**」のいずれかを選択します。

3

OK ボタン、もしくは ▶ボタンを押すと、スライドショーが始まります。

- スライドショーを途中で停止したい場合は、 OK ボタン、もしくは ✖ ボタンを押します。

ご注意 !!

- 「**マーク画像**」を選択した場合、カード内のファイル数によっては、スライドショーが開始されるまで、かなりの時間が掛かることがあります。

メ モ

- スライドショーを停止すると、停止時点に表示されている画像が継続表示されます。

スライドショーの設定を変更する



スライドショーのサブメニューで「**スライドショーの設定**」を選択し、OK ボタン、もしくは ▶ボタンを押すと、スライドショーの設定画面に移ります。

スライドショーの設定オプション

表示間隔	**2 秒** **5 秒** **10 秒**	画像が表示される時間を設定します。
繰り返し	**しない** **する**	スライドショーを繰り返すか、自動終了するかを設定します。

表示間隔

▲▼ボタンで「**表示間隔**」を選択し、◀▶ボタンで表示したい秒数を選択します。

繰り返し

▲▼ボタンで「**繰り返し**」を選択し、◀▶ボタンで「**しない**」か「**する**」を選択します。

設定の変更を確定する場合は OKボタンを、しない場合は ✖ ボタンを押します。

DPOF プリント

カードをデジタルプリント取り扱い店に持ち込んでプリントを依頼するとき、DPOF プリントメニューでプリントしたい画像の選択や枚数をあらかじめカメラで指定しておくことができます。指定情報は DPOF 対応プリンターでプリントする際にも利用できます。

ご注意 !!

- RAW データ（X3F ファイル）は、DPOF プリントの設定ができません。

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「▶ **再生設定**」（**P.28**）を開き「**DPOF 設定**」を選択します。

2

サブメニューで希望の指定方法を選択し、OK ボタン、もしくは ▶ボタンを押します。
（「**選択設定**」「**全選択**」を選択した場合は、確認メッセージが表示されます。実行する場合は OKボタンを、中止する場合は ✖ ボタンを押します。）

DPOF 設定オプション

選択指定	▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定します。1 回で複数の画像を指定したい場合は、プリントしたい画像を ◀▶ ボタンで表示させて ▲▼ ボタンを押して枚数を指定します。この操作を繰り返して指定します。最後に OK ボタンを押して確定します。
全選択	カードに記録されているプリント可能な静止画データを一括指定します。▲▼ ボタンを押して枚数を指定し、OK ボタンを押して確定します。
選択解除	以前に指定された枚数の指定を全てリセットします。OK ボタンを押すと、枚数指定が全て解除されます。

メ モ

- 画面下に指定したトータル枚数（各画像の指定枚数の合計）が表示されます。

その他の設定変更

カメラの基本動作を好みの状態に変更できる設定項目をご紹介します。

ファイル番号の設定

記録されたデータには、自動的に 0001 から 9999 までのファイル番号が付けられます。データを再生しているときは、液晶モニタの右上にファイル番号が表示されます（**P.88, 91** 参照）。また、ファイル番号はデータのファイル名にも表示されます。ファイル名は、4 ケタのファイル番号と拡張子が SDIM の後に続きます。例えば、画像番号 0023 は RAW データの場合、SDIM0023.X3F、JPEG データの場合、SDIM0023.JPG と記録されます。SD1 で撮影された画像ファイルは、すべてカードの DCIM フォルダ内の###SIGMA フォルダに記録されます。

- 「**撮影設定**」（**P.28**）→「**ピクチャーセッティング**」→「**カラースペース**」の設定で、「**Adobe RGB**」が選択されている場合、ファイル名の「SDIM」は「_SDI」となります。
- ファイル番号は連番か、空のカードを入れるたびにリセットされるかのいずれかを選択できます。設定はセットアップメニューの「**ファイル番号**」で行います。

「**カメラ設定**」（**P.28**）→「**ファイル番号**」より設定してください。

ファイル番号設定オプション

通し番号（初期設定）	連続でファイル番号が付けられます。空のカードを入れたとき、最初のファイルに付けられるファイル番号は、以前の撮影で付けられた最後の番号より 1 つ大きい番号が付けられます。（SD1 で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、以前に付けられた最後の番号よりもカード内のファイルの番号が大きければ、その番号の続きが付けられます。）
オートリセット	空のカードを入れたり、使用中のカード内の画像をすべて消去するたびに、ファイル番号が初期の番号 0001 にリセットされます。（SD1 で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、番号はリセットされずに次の番号が付けられます。）

ご注意 !!

- フォルダ番号−ファイル番号が ”999−9999”に達した場合、カードに空き容量があっても「**ファイル番号・フォルダ番号の割り当てができません。カードを交換してください。**」とメッセージが表示され、それ以上撮影ができなくなります。撮影を続行したい場合は予備のカードに入れ替えてください。
- 記録番号が限度に達したカードは、そのままではご使用になれません。以下の対処を行ってください。
  1. カード内のすべてのファイルをパソコン等に保存します。
  2. カードを初期化します。

撮影設定画面表示

ファインダー内の表示を見ながら設定変更したい場合、液晶モニタに設定画面を表示させないようにすることができます。

以下の撮影設定ボタンを押した際に、液晶モニタに設定画面を表示させるか、させないかを選択することができます。（個別に選択することはできません。）

露出補正ボタン	測光モードボタン	ISO ISO 選択ボタン
AF ポイント選択ボタン	調光補正ボタン	

「**カメラ設定**」（**P.28**）→「**撮影設定画面表示**」より設定してください。

+ （ファインダー＋液晶モニタ） （初期設定）	ボタンを押すと液晶モニタに設定画面が表示されます。ファインダー内の表示、もしくは液晶モニタの設定画面のいずれかで設定の変更ができます。
（ファインダー）	ボタンを押しても液晶モニタに設定画面が表示されません。ファインダー内の表示のみで設定の変更ができます。

ご注意 !!

- 「**撮影設定画面表示**」を「■」に設定した場合、ファンクション画面やクイックセット画面を表示させている時に撮影設定ボタンを押すと、ボタンを押している間は画面が消灯します。

ダイヤルのカスタマイズ

露出設定時の、ダイヤルの回転方向や、ダイヤルの割り当てを好みの状態にカスタマイズすることができます。

A,S ダイヤルの入れ換え

マニュアル露出モードでは、通常、**A** ダイヤル（ ）で絞り値の設定、**S** ダイヤル（ ）でシャッター速度の設定をしますが、動作の割り当てを入れ換えすることができます。

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**A,S ダイヤルの入れ換え**」より設定します。

しない （初期設定）	**A** ダイヤル（ ）で絞り値の設定 **S** ダイヤル（ ）でシャッター速度の設定
する	**A** ダイヤル（ ）でシャッター速度の設定 **S** ダイヤル（ ）で絞り値の設定

ダイヤル回転方向の反転

絞り値、シャッター速度設定時の設定方向を反転させることができます。

「**撮影設定**」（**P.28**）→「**ダイヤル回転方向の反転**」より設定します。

	絞り値	**シャッター速度**
しない （初期設定）	**開く** A S **絞る**	**遅い** A S **速い**
する	**絞る** A S **開く**	**速い** A S **遅い**

LCD オフとオートパワーオフ

SD1 は電池の消耗を抑えるために、ある一定の時間操作しない状態が続くと、自動的に液晶モニタを OFF にする「**LCD オフ**」と、電源を OFF にする「**オートパワーオフ**」の機能を備えています。

LCD オフとは
ある一定の時間操作しない状態が続いたとき、電池の消耗を抑えるため、自動的に液晶モニタのバックライトを OFF にします。LCD オフ中は、カメラの電源は ON の状態ですので、各ボタン（プレビューボタンを除く）は通常通り操作可能です。シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

オートパワーオフとは
LCD オフ中にも操作が行われなかったときに、より電池の消耗を抑えるため、自動的にカメラの電源を OFF にします。オートパワーオフ中は、各ボタンは機能しません。シャッターボタンを半押しして、カメラの電源を ON にする必要があります。LCD スリープ時同様、シャッターボタンの半押しで、すぐに撮影を始めることができます。

「**カメラ設定**」（**P.28**）→「**LCD オフ**」および「**オートパワーオフ**」より設定してください。

LCD オフ

切
eco **10 秒**
30 秒
1 分 （初期設定）
5 分
10 分

オートパワーオフ

切
30 秒
1 分
5 分（初期設定）
10 分

- eco マークは、電池の消耗を抑える推奨設定です。

メ　モ

- 「**LCD オフ**」の「**切**」は自動的に消灯しなくなる設定です。
- 「**オートパワーオフ**」の「**切**」は自動的に電源が切れなくなる設定です。

ご注意 !!

- 「**LCD オフ**」の設定は、「**オートパワーオフ**」の設定よりも長い時間を設定することはできません。例えば「**LCD オフ**」を「**5 分**」、「**オートパワーオフ**」を「**1 分**」に設定した場合、「**LCD オフ**」の設定時間が自動的に「**1 分**」に変更されます。

AF 微調整

オートフォーカス撮影でのピントの合う位置を微調整できます。

ご注意 !!

- 通常、AF 微調整を行う必要はありません。調整を行うことで、最適なオートフォーカス撮影ができなくなる場合がありますので、十分注意の上、調整してください。
- 手ぶれや前後の微妙な移動が、調整結果に大きく影響しますので、調整やテスト撮影の際には、必ず三脚に固定して行ってください。
- 発売時期の古いレンズは、レンズ情報が取得できず、調整できない場合があります。
- カメラの発売時期より後に発売されたレンズをご使用の場合、レンズ情報が取得できず、調整ができない場合があります。その場合は、カメラ内のレンズ情報を更新する必要があります。弊社ホームページにて最新情報をご確認ください。

AF 微調整オプション

切 （初期設定）	AF 微調整を登録したレンズを装着しても、調整の結果を反映しません。
入	AF 微調整を登録したレンズが装着されていると、調整の結果を反映したオートフォーカス撮影が行われます。
設　定	装着しているレンズに対して、AF 微調整を行います。

調整の手順

1

調整したいレンズを装着します。

2

「**カメラ設定**」（P.28）の「**AF 微調整**」を選択します。

3

サブメニューで「**設定**」を選択し、OK ボタン、もしくは ▶ボタンを押して AF 微調整画面を開きます。



4

◀▶ボタンで調整します。

◀ボタンを押すと、前ピン方向に調整されます。
▶ボタンを押すと、後ピン方向に調整されます。

5

OK ボタンを押して、調整を確定します。（確定すると、自動的に「AF **微調整**」が「**入**」に設定されます。）

ご注意 !!

- 同じレンズを複数本登録することはできません。別の個体を装着しても、以前に調整した同じレンズとみなされます。

設定のリセット

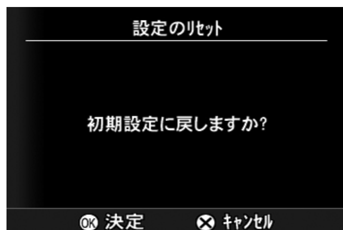
カメラの各種設定を一括して初期の状態に戻すことができます。

1

D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、MENU ボタンを押して「**カメラ設定**」（**P.28**）の「**設定のリセット**」を選択します。

2

▶ボタンか OKボタンを押して、確認メッセージを開きます。

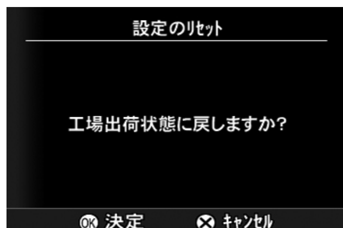


3

設定をリセットする場合は、OKボタンを、中止する場合は ✖ ボタンを押してください。

- 上記リセットの手順では、以下の項目の内容はリセットされません。
  - **言語の設定**
  - **カスタムモードの設定**
  - **AF 微調整の設定値**

この３項目を含めてリセットしたい場合は、工場出荷状態に戻す必要があります。手順 **2** で確認メッセージを表示させたあとに 🗑 ボタンを押すと、「**工場出荷状態に戻しますか？**」と確認メッセージが切り替わります。



工場出荷状態に戻す場合は、OKボタンを、中止する場合は ✖ ボタンを押してください。

参考資料

カメラのスペックなどを説明します。

別売アクセサリー

リモートコントローラー RS-31

シャッターを離れた所から切ることができる、ワイヤレスのリモコンです。シャッターが切れるタイミングを 2 段階で設定する機能、他の SA、SD カメラの誤作動を防止できるチャンネル設定の機能を備えています。（詳しくは **P.78 - 80** をご覧ください。）

パワーグリップ PG-31 (2011 年夏発売)

縦位置グリップとしても使用できる電池パックです。リチウムイオン充電池 BP-21 を 2 個使用し、撮影可能回数を約 2 倍に伸ばすことができます（撮影の設定や使用電池を同一条件で比較した場合）。また、縦位置用レリーズボタンが装備されていますので、縦位置でも安定したホールディングで撮影することができます。

エレクトロニックフラッシュ EF-610 DG SUPER SA-STTL

最大ガイドナンバー61（ISO100・m）の大光量オートズームフラッシュです。S-TTL 方式による自動調光撮影や、マルチ発光撮影などの多彩なフラッシュ撮影が可能となります。（詳しくは **P.81 - 82** をご覧ください。）

エレクトロニックフラッシュ EF-610 DG ST SA-STTL

最大ガイドナンバー61（ISO100・m）の大光量オートズームフラッシュです。S-TTL 方式による自動調光撮影により、気軽にキレイなフラッシュ撮影が可能となります。EF-610 DG SUPER SA-STTL 同様、オートズーム機能や、バウンスヘッド機能を備えています。（詳しくは **P.81 - 82** をご覧ください。）

ケーブルレリーズスイッチ CR-21

カメラ本体のレリーズソケット（**P.13**）に接続して、カメラに触れずにシャッターを切ることができます。ミラーアップ撮影や、超望遠レンズを使用する場合など、少しでもブレを軽減したいときに効力を発揮します。

AC アダプター SAC-4

家庭用電源で SD1 を使用するための専用 AC アダプターです。屋内で大量に撮影する場合や、画像の転送、センサークリーニング時にご使用ください。（詳しくは **P.23** をご覧ください。）

視度補正レンズ

カメラ内蔵の視度補正機能で補正しきれない場合は、視度補正レンズをファインダーに取り付けることにより、補正幅を広げることができます。–4 から+3 まで、7 種類のレンズを用意しています。

お手入れについて

- ダストプロテクターの清掃は、市販のブロワーでホコリを吹き飛ばすだけにしてください。ブロワーブラシのブラシの部分はキズが付きますので使わないでください。万一、ダストプロテクターのガラス部分にに指紋などがついてしまった場合は、市販のブロワーでホコリを吹き飛ばしたあとに、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。また、ダストプロテクターは非常に薄くできています。拭きとりの際に、力を入れすぎると破損する恐れがありますのでご注意ください。
- ボディやレンズのお手入れにシンナーやベンジンなどの有機溶剤は表面の仕上げをいためますので絶対に使用しないでください。ボディやレンズの鏡筒部は柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。レンズ面についたほこり等は市販のブロワーで軽く吹き飛ばす程度にし、指紋などがついてしまった場合は市販のレンズクリーナーを使用して慎重に拭きとってください。
- 注油の必要はありません。注油は逆効果の恐れがありますので絶対にしないでください。
- 液晶モニタにほこりやゴミ等が付着した場合は、市販のブロワーで吹き飛ばしてください。汚れがひどいときは柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。

撮像素子のクリーニングについて

SD1 はボディ内部にホコリの侵入を防ぐために、ダストプロテクターを装備していますが、まれに撮像素子にホコリが付着し、撮影画面に写り込むことがあります。その場合は、以下の要領で撮像素子のクリーニングを行ってください。

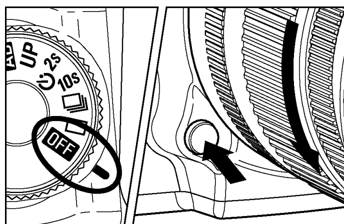
- 非常に慎重な作業が必要になりますので、極力、弊社営業所にクリーニングをお申し付けください。

警 告 !!

- 撮像素子はカメラの心臓部ともいえる重要な部分です。最善の注意をはらって作業をしてください。
- スプレー式のエアクリーナーは使用しないでください。噴射する角度によっては液体が噴き出し、撮像素子を傷める可能性があります。

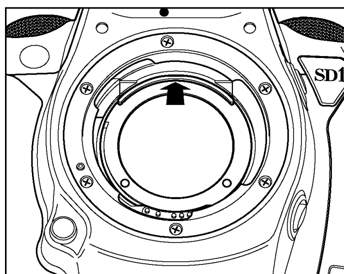
警 告 !!

- 清掃後は確実にダストプロテクターを取り付けてください。取り付けが不完全な場合、ダストプロテクターが外れ、カメラやレンズを破損することがあります。
- ブロワーは、必ずブラシのついていないものを使用してください。ブラシ付のものは撮像素子にキズをつける恐れがあります。
- AC アダプター（別売）のご使用をお勧めします。電池をご使用の際は、電池をフル充電してから行ってください。電池が一定電圧以下になると「ピーピー」とブザーによる警告音が発せられまので、直ちにクリーニングを中断して、電池を充電してください。



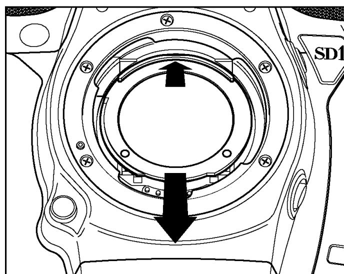
1

D ダイヤルを OFF にし、レンズを外します。



2

ダストプロテクター上部の突起部分に爪をかけ、▲印の方向にスライドして、ダストプロテクターを外します。



3

突起部分を上に押さえたままにすると、ダストプロテクター下部が浮き上がりますので、下部をつまんで取り除きます。（ガラス部分に触れないように注意してください。）

4

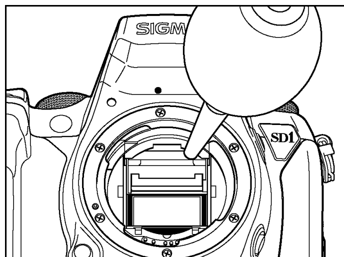
D ダイヤルをドライブエリアに合わせ、**MENU** ボタンを押して「**カメラ設定**」（**P.28**）の「**クリーニングモード**」を選択します。

5

OK ボタン、もしくは ▶ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

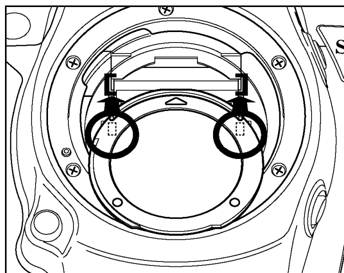
6

再度OK ボタンを押すと、シャッターが開き、撮像素子が見える状態になります。



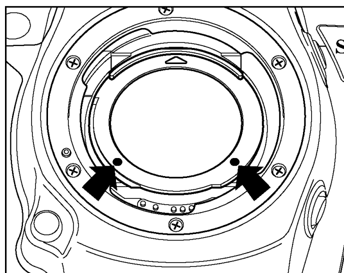
7

ブロワーで慎重に撮像素子のホコリを吹き飛ばしてください。
ブロワーの先がマウント面より内側に入り込まない位置で作業してください。万一、電源が切れてしまった場合、シャッター幕やミラーが作動し、ブロワーの先が接触すると、カメラが破損する恐れがあります。



8

D ダイヤルをOFF に戻します。ダストプロテクターのガラス部分にホコリが付いていないことを確認し、▲印を上に向け、ダストプロテクター裏面 2 箇所の四角い突起（点線部）と図に示す切かき部分が一致するようにはめ込みます。



9

ダストプロテクターの左右の●印部を指でパチッと音が鳴るまで押して固定します。
確実に固定されていることを確認して、レンズを取り付けて完了です。

- 清掃してもホコリが取りきれない場合は、弊社営業所にご相談ください。万一、ダストプロテクターのガラス部分に指紋が付いてしまった場合は、ブロワーでほこりを吹き飛ばした後に、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。

基本用語の解説

AE

Auto Exposure の略で、カメラに内蔵された露出計の値をもとに、自動的に最適な露出（シャッター速度と絞り値の組み合わせ）が決定されます。

AE ロック

AE モードのまま露出を固定する方法です。例えば被写体を画面の中央から外れた構図にしたい場合、一旦被写体を中央に置いて測光値を固定すれば、構図を変えてもバックの明るさに影響されません。（このカメラでは AE ロックボタンを使用します。）

AF

Auto Focus の略で、カメラに内蔵されたセンサーによって、自動的にピントを合わせる機能です。

AF ロック

AF モードのままピントを固定する方法です。例えば被写体を画面の中央から外れた構図にしたい場合、一旦被写体を中央に置いてピントを固定すれば、構図を変えてピントがずれません。（このカメラではシャッターボタンの半押しを利用します。）

CMOS

Complementary Metal Oxide Semiconductor（相補性金属酸化膜半導体）の略で、画素数分のフォトダイオード、増幅装置、ワイヤーからなる撮像素子です。CMOS センサーのメリットは、1 画素ごとに電気信号を増幅し取り出せる構造になっており、応答速度に優れ、消費電力が少ないことがあげられます。

EV

Exposer Value の略で露光量を表す単位で、被写体の明るさとフィルムの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。フィルムに与えられる光量が２倍になると EV 値は＋１、半分になると EV 値は－１変化します。デジタルカメラでも、銀塩写真に準じて EV 値が使われます。

ISO 感度
ISO（国際標準機構）感度として表記されている、フィルムの光に対する感度の強さを示す数値です。ISO 感度は数値が大きくなるほど光に対する感度が強くなります。デジタルカメラでも、銀塩写真に準じて ISO 感度が使われます。

JPEG
Joint Photographic Experts Group の略です。カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を復元したときの画像は劣化します。

NTSC (National Television Standards Committee)
アメリカや日本などが採用している地上波アナログカラーテレビ放送の映像信号方式。アナログ・コンポジット方式とも言います。仕様を作成したアメリカの標準化委員会 (National Television Standards Committee)の略称がそのまま方式名になっています。水平方向の走査線数が 525 本で 1 秒間に 30 フレームで構成されています。

PAL (Phase Alternation by Line)
旧西ドイツで開発され、フランス以外の西ヨーロッパ諸国をはじめ、中国などのアジア諸国やアフリカなどで採用されている地上波アナログカラーテレビ放送の映像信号方式です。水平方向の走査線数が 625 本で毎秒 25 フレームで構成されています。

RAW
撮像素子からの情報を特別な演算処理を加えず、コンピューター上での画像処理を前提としたデータ形式です。画像の劣化しない方式で圧縮されたデータを専用ソフトで解凍、画像処理ができますので、高画質を保ったまま補正を加えることが可能です。

色温度
光源から出る光の色合いを、温度を表わすケルビン（K）という単位を使って数字で表わしたものです。基準となる太陽光は 5600 K 付近となり、色温度が低いと赤味が強い光となり、高いと青味が強い光となります。ちなみにタングステン光は 3200 K 程度、コンピューターのディスプレイは 9300 K 程度に設定されています。

オートパワーオフ機能
ムダな電力消費を防ぐため、一定の時間カメラを操作せずに放置すると、自動的に電源を OFF にする機能です。

絞り値
撮像素子に当たる光の量をレンズ内の絞り羽根を開けたり閉じたりして調整しますが、この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り値と言います。数値が小さいほど明るく、大きくなるほど暗くなります。

シャッター速度
撮像素子に当たる光の量をカメラのシャッターの開いている時間で調整しますが、このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度と言います。

ヒストグラム (histogram)
一般的には分布図のことですが、画像用語としては画像の明るさの分布を表わしたものです。水平軸は明るさのレベルを表し、垂直軸が各明るさでの画素の登場回数を表わしています。SD1、および SIGMA Photo Pro のヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。

ホワイトバランス
人間の目は照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整されます。デジタルカメラは、白いものが白く写るように照明光の色に合わせた調整が必要です。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

露出
撮影するために撮像素子に当てる光の量を露出といいます。また、撮像素子の感度に合わせて適切な光量を当てることを適正露出と言います。露出は、「絞り値」と「シャッター速度」の組み合わせで調整します。

警告表示と対処について

液晶モニタのメッセージ

“カードが入っていません”

▶カードを入れてください。（**P.39**）

“カードエラー”

▶カードをフォーマットするか、既にフォーマットされているカードを入れてください。（**P.41**）

▶カードが壊れている可能性があります。

“容量がいっぱいです”

▶新しいカードを入れるか、要らない画像を消去して容量を空けてください。（**P.39-40**）（**P.96-97**）

“画像がありません”

▶問題ありません。再生できる画像が 1 枚も撮影されていない状態です。

“このファイルは再生できません”

▶他のカメラで撮影した画像か、画像データが壊れている可能性があります。

“このファイルは拡大できません”

▶他のカメラで撮影した画像か、画像データが壊れている可能性があります。

“記録できません”

▶カードに異常がある可能性があります。画像データをパソコン等に保存し、パソコンでカードをフォーマットしてください。再度メッセージが表示される場合は、カードが壊れていますので、他のカードをご使用ください。

“エラーコード＊＊＊” （＊＊＊は番号が表示されます）

▶いったん電源を OFF にします。再度電源を入れ、問題が解決しなければ、弊社営業所にご相談ください。

困ったときは

カメラの調子が悪かったり写真がうまく写らなかった場合、故障と思われる前に次の点を確認してください。

液晶モニタになんの表示も出ない。

電池が消耗している。

▶新しい電池と交換してください。（**P.19~22**）

電池の向きが正しくない。

▶正しい向きに入れ直してください。（**P.20**）

オートパワーオフが働いている。

▶シャッターボタンを半押ししてから、いずれかの操作を行ってください。（**P.111**）

シャッターが切れない。

D ダイヤルがドライブエリア以外にセットされている。

▶ドライブエリア内で撮影してください。（**P.61**）

合焦表示が点灯していない。（シングル AF モード時）

▶ピントを合わせる位置を変えるか、手動でピントを合わせてください。（**P.55~59**）

カードが入っていない。

▶カードを入れてください。（**P.39**）

データ処理中（ビジー状態）になっている。

▶処理が終わるまでお待ちください。（**P.42**）

カードの空き容量がいっぱいになっている。

▶新しいカードを入れるか、いらない画像を消去して容量を空けてください。（**P.39-40**）（**P.96-97**）

オートフォーカスが動かない。

レンズのフォーカスモードスイッチが **M** になっている。

▶レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にしてください。（**P.55**）

レンズがきちんと取り付けられていない。

▶正しくレンズを取り付けてください。（**P.24**）

AF 駆動設定が「**AF AF-On / 切**」になっている。

▶AF ボタンでオートフォーカスが駆動します。シャッターボタンの半押しで駆動させたい場合は、設定を変更してください。（**P.60**）

電源が勝手に切れる。

オートパワーオフが働いている。

▶長時間、電源を切りたくない場合は、セットアップメニューでオートパワーオフの設定を「**切**」にしてください。（**P.111-112**）

撮影・記録ができない。

カードが正しくセットされていない。

▶カードを正しく入れてください。（**P.39- 40**）

カードの空き容量がいっぱいになっている。

▶新しいカードを入れるか、いらない画像を消去して容量を空けてください。（**P.39-40**）（**P.96-97**）

電池が消耗している。
▶新しい電池と交換してください。（**P.19~22**）

ピントが合っていない。
▶もう一度ピントを合わせ直すか、手動で合わせてください。（**P.55~59**）

液晶モニタの表示・画像が不鮮明になる。

ゴミや汚れが付いている。
▶ブロワーで吹き飛ばしたり、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。（**P.116**）

液晶モニタが劣化している。
▶お買い上げの販売店もしくは弊社営業所にご相談ください。

画像がボケて写っている。

レンズのフォーカスモードスイッチが **M** になっている。
▶レンズのフォーカスモードスイッチを **AF** にしてください。（**P.55**）

手ブレをおこしている。
▶シャッターボタンを静かに押すか、三脚等を利用してカメラを固定して撮影してください。

カードが使えない。

カードのデータが壊れている。
▶カードを初期化してください。（**P.41**）

画像を消去できない。

画像にロックがかかっている。
▶ロックを解除してください。（**P.98 - 100**）

撮影年月日・時間が正しく表示されない。

日付・時間が正しく設定されていない。
▶日付・時間を正しく設定してください。（**P.27**）

テレビに画像が出ない。

ビデオケーブルがしっかりと差し込まれていない。
▶ビデオケーブルを根元までしっかりと差し込んでください。（**P.94 - 95**）

主な仕様

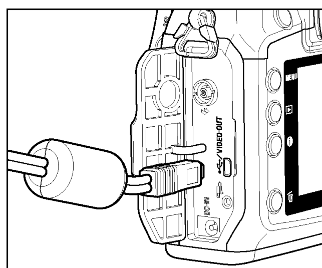
型式	レンズ交換式デジタル一眼レフレックスカメラ
記録媒体	CF カード（Type I, UDMA 対応）
撮像素子サイズ	23.5 x 15.7 mm
レンズマウント	シグマ SA バヨネットマウント
実撮影画角	レンズ表記の約 1.5 倍の焦点距離に相当（35mm カメラ換算）
使用レンズ	シグマ SA マウント交換レンズ
撮像素子	X3 ダイレクトイメージセンサー（CMOS）
画素数	総画素 ： 約 48MP 有効画素 ： 約 46MP（4800 x 3200 x 3）
アスペクト比	3：2
記録フォーマット	Exif 2.3 準拠、DCF2.0 準拠
記録方式	ロスレス圧縮 RAW（12-bit、High、Medium、Low）、 JPEG (High、Medium、Low)
記録画素数	HI (High)：4704 x 3136 画素、 MED (Medium)：3264 x 2176 画素、LOW：2336 x 1568 画素
画質モード	RAW、JPEG (Fine, Normal, Basic)、RAW+JPEG(Fine)
インターフェイス	USB 2.0、ビデオ出力（NTSC／PAL 切替可）
ホワイトバランス	8 種（オート、晴れ、日陰、曇り、白熱電球、蛍光灯、フラッシュ、 カスタムホワイトバランス）
ファインダー	ペンタプリズム式一眼レフファインダー
ファインダー視野率	縦 98%、横 98%
ファインダー倍率	0.95 倍（50mm F1.4、∞）
アイポイント	18mm
視度補正範囲	－3.0 dpt ～＋1.5 dpt
オートフォーカス	TTL 位相差検出方式、11 点ツインクロスセンサー
AF 検出範囲	EV －1～18（ISO100）
フォーカスモード	AF-S（シングル）、AF-C（連続、動体予測機能付）、マニュアル
測光方式	77 分割式評価測光、中央部重点平均測光、中央部分測光、 スポット測光
測光範囲	EV 1～20（50mm F1.4、ISO100）
露出モード	**P** プログラム AE、**A** 絞り優先 AE、 **S** シャッター速度優先 AE、**M** マニュアル露出
ISO 感度	ISO 100、200、400、800、1600、3200、6400
露出補正	±3EV（1／3 ステップ）、フラッシュ調光補正機能あり
AE ロック	レリーズボタンの半押し、あるいは AE ロックボタンを押す
オートブラケット	3 コマ／5 コマ段階露出 （1／3 ステップ、適正 → アンダー → オーバー）順序変更可
シャッター	全速度電子制御式縦走行方式フォーカルプレーンシャッター

シャッター速度	1/8000～30 秒 バルブ（30 秒まで）（拡張モード設定時は 120 秒まで） フラッシュ同調速度 1/180 秒
連続撮影速度	約 5.0 コマ／秒 (画像サイズ HI 時) 約 6.0 コマ／秒 (画像サイズ MED, LOW 時)
内蔵フラッシュ	S-TTL 自動調光、手動ポップアップ式、 ガイドナンバー: 11 (ISO100 / m)、レンズ表記 17mm をカバー
外部フラッシュシンクロ	ホットシュー（X 接点、専用フラッシュ連動接点付）
液晶モニタ	アスペクト比 3:2　3.0 型 46 万ドット 広視野角 TFT 液晶 （視野率約 100％）
画像再生	1 画像再生、9 画像サムネイル表示、拡大再生、スライドショー
液晶モニタ表示言語	9 言語 (英語 / 日本語 / ドイツ語 / 中国語(簡体字) / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / 韓国語 / ロシア語)
電源	専用リチウムイオン充電池 BP-21、 ＡＣアダプターSAC-4（別売）
大きさ	145.5 mm（幅）x 113.5 mm（高さ）x 80.0 mm（奥行）
質量	700ｇ（電池除く）

コンピューターとの接続について

カードに記録された画像は、SD1 をコンピューターに接続して転送することができます。画像データの転送速度はコンピューターの性能やオペレーティングシステムにより変わります。コンピューターとの接続方法の詳細は、現像ソフト **SIGMA Photo Pro** のヘルプをご覧ください。

接続に関するご注意



- カメラとコンピューターをケーブルで接続する前に、カメラの電源を **OFF** にしてください。

USB 接続

- 付属の USB ケーブルをカメラの＜**USB / VIDEO-OUT**＞端子（コネクターカバー内）とコンピューターの USB 端子に接続してください。
- USB 接続中は、カメラのシャッターボタンと液晶モニタは使用できません。
- USB 接続中は、カメラのオートパワーオフの機能が働きません。

警 告 !!

- コンピューターとの接続には、付属の専用ケーブル以外は使用しないでください。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。

電話でのお問い合わせ
シグマ カスタマーサービス部
フリーコール ：**0120-9977-88**
（携帯電話・PHS をご利用の方は 044-989-7436 にご連絡ください）
受付時間 : 月～金 9:00-18:00
（土日祝日および年末年始弊社休業日はお休みさせていただきます）

株式会社シグマ
本　　社
〒215-8530 神奈川県川崎市麻生区栗木 2 丁目 4 番 16 号
☎(044) 989-7430 (代)　FAX: (044) 989-7451

大阪営業所　〒541-0059 大阪市中央区博労町 1-7-2　堺筋トラストビル 8F　☎06(6271)1548
工　　場　〒969-3395 福島県耶麻郡磐梯町大字大谷字日知坂 6594　☎0242(73)2771(代)

弊社事業所の営業時間 : 月～金 9:00-17:00
（土日祝日および年末年始弊社休業日はお休みさせていただきます）

インターネットホームページアドレス　**http://www.sigma-photo.co.jp**

お詫びと訂正 日本語

24 ページ「**レンズを取り付ける**」の項目におきまして、「カメラのマウントにある赤い丸…」とありますが、実際は白い丸です。（15 ページも同様です。）お詫びして訂正させていただきます。

CORRECTION NOTICE ENGLISH

The text on P.24 for information regarding [**MOUNTING AND REMOVING THE LENS**] is currently as follows: “Align the red mark on the camera’s mount with the red dot on the lens”. However, the mark on the camera’s mount is actually white in color and not red.

KORREKTURHINWEIS DEUTSCH

Der Text im Benutzerhandbuch auf S.24 mit den Informationen über [**ANSETZEN UND ABNEHMEN DES OBJEKTIVS**] lautet im Moment wie folgt: "Richten Sie den roten Punkt am Objektiv auf die rote Markierung am Kamerabajonett aus". Die Markierung am Kamerabajonett der SD1 ist indessen weiß und nicht rot.

修正通告 简体中文

在用户手册之第 24 页 **[安装及拆卸镜头]**，现更改如下:“在镜头接环上之红点与相机上的红色标记对齐”。但是在相机接环上之标记是白色，而并非红色。

修正通告 繁體中文

在用戶手冊之第 24 頁 **[安裝及拆卸鏡頭]**，現更改如下:“在鏡頭接環上之紅點與相機上的紅色標記對齊”。但是在相機接環上之標記是白色，而並非紅色。

CORRECTIONS DU MODE D’EMPLOI FRANÇAIS

MISE EN PLACE ET RETRAIT DE L’OBJECTIF (P.24)

Alignez le repère blanc placé sur la baïonnette de l’appareil avec le point rouge situé sur l’objectif.

AVISO DE CORRECCIÓN ESPAÑOL

El texto de la P.24 con la información acerca del [**MONTAR Y DESMONTAR EL OBJETIVO**] es actualmente el siguiente: "Alinear la marca roja en la cámara con el punto rojo en el objetivo". Sin embargo, la marca de la cámara en realidad es de color blanco y no rojo.

ATTENZIONE, TESTO VARIATO ITALIANO

Il testo a pag.24 circa il **METTERE E TOGLIERE L'OBIETTIVO** va cambiato in:” Allineare il segno rosso sull’innesto della fotocamera con il punto rosso dell’obiettivo”. Attualmente il segno sulla fotocamera è bianco e non rosso.

매뉴얼 내용의 수정 공지 한국어

[**렌즈 교환**]에 관한 정보는 24 페이지에 “카메라의 빨간색 점에 렌즈의 빨간색 점을 정렬합니다.” 라고 되어 있습니다. 그러나, 카메라에는 빨간색 점이 아니라 흰색으로 되어 있습니다.”

УВЕДОМЛЕНИЕ ОБ ОШИБКЕ В ИНСТРУКЦИИ. РУССКИЙ

На странице 24 инструкции, в описании установки объектива на камеру, ошибочно указано: «Совместите красную точку на байонете камеры с красной точкой на объективе». На самом деле, точка на байонете камеры белого цвета.